
仮面ライダー×魔法少女 5 5 5 MAGIKA 超スピンオフ！

亜雲AZ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー×魔法少女 555 MAGIKA 超スピンオフ！

【Nコード】

N1068X

【作者名】

亜雲AZ

【あらすじ】

人気御礼！ついにあの超スピンオフが帰ってきた！ここならではのファイマギメンバーの顔が…！？本編のネタバレを含みますので、閲覧には気をつけてください（一応注意はつけておきますが、できれば最新話を読んだ上での閲覧をお勧めいたします）

FILE 1 【陳情！ライダー変身！！前編】

まどか「皆！ 555 MAGIKAを応援してくれてありがとう！
なんと、先日ついに50000アクセスを突破しました！」

さやか「おおー！」

マミ「ところで、今私たちが写ってるのってもしかして……」

まどか「はいマミさん！ なんと、あの超スピノフが連載になつて帰ってきましたー！！」

三人「「「これからも、ファイマギをよろしくお願いいたします！
！」「」

杏子「大変だああああ！！！」

さやか「おっ！ スピノフ限定登場の佐倉杏子ではありませんか
ー！！」

杏子「限定じゃねええええええ！！ 先行登場だよ！ んなことよりも大変なんだよ！」

マミ「佐倉さん、いったいどうしたの！？」

杏子「ほ……ほむらが……！」

まどか「ほむらちゃんに何かあったの！？」

杏子「ほむらが……やさぐれた」

三人「「「……は？」「」

ほむら「あなた達はいいわねえええええオルフェノクに対抗できてー!! 私なんて……私なんてえええええええええ!!」↑ロケツ
トランチャー連発

三人「「「キャラが微塵も残ってなあああああいッ!!!」」」

ほむら「どうせ佐倉杏子も、美樹さやかもオルフェノク倒す展開あるんでしょ!? それに比べ、無力な私はあああああ!!!! ギ
ガントでも無ければ無理よ!」

Exceed Charge

ファイズ「とりあえず落ち着け」↑ファイズサウダー

ほむら「ほむっっっっっっっ!!!!」ちゅどーん

全員「「「ハイパーバトルビデオから持ってきたあああ!!!!?」」」

「

~~~~~

ほむら「私も、仮面ライダーになりたい」  
巧「それが本音だな」

マミ「陳情……ね」スッ つバラ  
まどさや「マミさん!？」

巧「というわけで、今日は特別にある奴を呼んだ。まさに最終兵器  
!」  
まどか「それっていったい……?」

門矢士（以下「士」）「通りすがりの仮面ライダーだ、覚えておけ  
!」

全員「「まさに世界の破壊者<sup>さいしゅうへいき</sup>iiiiiii!」!」!」

士「さて、お前が仮面ライダーになりたいと言ってる奴か」  
ほむら「ええ。さつさと頼むわ」

士「なつてないな。『お願いします』、だろ？」

ほむら「……よろしくお願いします」

士「よし、というわけで……変身!」

K a m e n R i d e D E C E D E

ディケイド「仮面ライダーに変身だ!」

さやか「完全にノリが超スピノフ……」  
巧「これも超スピノフだからな」

【ケース1 制限皆無の仮面ライダー龍騎】

ディケイド「クウガ以前のライダー、アギトは無理だからな、カードデッキライダーの龍騎から変身だ。今回は鳴滝の全面協力でオーディンを除くデッキ+アビスを用意したぞ」

鳴滝「この中からディケイドを倒すライダーが生まれるかもしれないからな」

ほむら「……」スツ

ディケイド「おっと、掛け声を忘れるのはアウトだ。ちゃんと『変身』と叫べ」

ほむら「その必要はないw」

鳴滝「いいやある！ ライダーとは掛け声が肝心だ！ これがなければライダーではない」

杏子「じゃあ響鬼はどうなんだよ」

鳴滝「……響鬼は元々ライダーの企画物ではなかったから例外だ！」

杏子「都合のいいおっさんだなあ」

ナイト（さやか）「おおー！ これいいわー！」

ほむら「私が主役の企画で何やってるのよー！」

まどか「駄目？」

ほむら「いいえいいわー！」

さやか「差別反対！」

まどか「じゃあ……変身ッー！」ピキーン

龍騎（まどか）「はあああッー！」シャキーン

杏子「流石主人公、似合うな」

王蛇（巧）「ふっ」手首スナップ

全員「……なんで本職の主人公は悪のライダー選択してんだあああああー！」

龍騎（まどか）「でもなんでだろ！ 似合うよ！」

ナイト（さやか）「草加の方が似合う気もするけど。首回し的な意味で」

杏子「まあ、チンピラみたいな奴だからな、たく……いぬ……むう……」

マミ「まだなんて呼ぶか決まってるのね。本編でてないし」

杏子「いやでてるわ……っと、マミこれ使え」 つカードデッキ

マミ「いいけど……変身！」

龍騎（まどか）「……」

ナイト（さやか）「……」

ゾルダ（マミ）「……」

王蛇（巧）「……ハイパーバトルビデオか」

Dアギト「黒歴史を持つてくるか」

全員「……そういうあんたもちやつかり空気呼んでんじゃねえよ！」  
「」

巧「さて、杏子も使え」

杏子「あれやらせたいだけだろ……変身！」

王蛇（杏子）「……食うかい？」

ナイト（さやか）「違和感なーし」

アビス（巧）「鮫ライダーと聞いて」

王蛇（杏子）「確かにファイズも裏モチーフ鮫だっけか」

シザース（マミ）「皆、これはどうかしら！」

全員「……なぜよりもよってそれチョイスした!!?」  
「」

オーディン（キュウベえ）「僕と契約してかめ……魔法少女になつてよ！」

全員「……オーディンないんじゃないかなかったのかああ！でも契約厨だけに似合うわ……！」

キャツキャツ

タイガ（ほむら）「……次」  
ディケイド「……わかった」

【ケース2 オンドウライダーと音撃戦士】

ディケイド「今度はブレイドだ！こつちも比較的制限は低い！」

ブレイド（さやか）「私は正義の味方になるんだ！」

ギャレン（マミ）「私の体はボロボロだ！」

ディケイド「お前達似合いすぎだ」

ブレイド（さやか）「褒めすぎだってチーズ」

ディケイド「誰がチーズだ」

レンゲル（ほむら）「……次い！」

さやか「マミさん！これお願いします！」

マミ「……ええ。変身……」キーン

響鬼（マミ）「たあぁー！」

さやか「よし、もういいっす」

響鬼（マミ）「……解除」

Dファイズアクセル「逃げたほうがよさそうだな」  
ファイズアクセル「ああ」

Start Up

Start Up

マミ「ふう……っていやあああああああああああああああああああ  
ああ……！」

まどか「す……すっぱんぽおおおおおん……！」↑鼻血ぶー  
ほむら「……敵……！」

杏子「何気に男勢逃げて……あ、キュウベえがいた」  
キュウベえ「僕は性別不明だから問題ない！」どやあ

マミ「……美樹さあん？」

さやか「すみません……出来心で」ぼっこぼこ

杏子「しかし、胸でかかったな」

### 【ケース3 高速ライダーと電車ライダー】

ディケイド「カブト系はゼクターに認められなければ変身できない  
！ よって、ほむら、お前は無理だ！」

ほむら「ふざけるなああああああああ……！」

カブト（巧）「……あわれ」

パンチホッパー（さやか）「なんのいじめか」

キックホッパー（マミ）「うふふー」

ガタック（まどか）「地獄姉妹にならないで……」

Mまどか「俺、参上！」

Uさやか「僕に釣られてみる？」

Kマミ「泣けるわよ！」

R巧「一緒におどろ！ 答えは聞いてない！」

ほむら「地味に乾巧は黒歴史をえぐられてる……」

ディケイド「次回はキバ以降のライダーに変身だ!!」

T o B e C o n t i n u e d .

**FILE 1**      **【陳情！ ライダー変身！！前編】（後書き）**

**FILE 2** **【陳情！ ライダー変身！！その2】をお楽しみに！**

## FILE 2 【陳情！ライダー変身！！後編】

ガタツク（さやか）「前はほむらの欲望からライダー変身の回となり、今回はその続き……ってなんでガタツク？」  
マミ（爆死ですねわかります）

【ケース4 変身しなさい。そして泥棒はちゃんと返してきなさい】

ディケイド「よし、今度はキバ……と行きたいところだが、今回はイクサだ」

ほむら「なぜ！？」

ディケイド「死にたいならいいぞ」

巧「キバの変身には『魔皇力』ってのが体内に流れるから、普通の人間はそれで死ぬらしい」

ほむら「……イクサでいいわ」

ディケイド「よし、ではここで特別コーチの登場だ」

名護「さあ、私についてきなさい」

全員「「本物来たあああああ！」「」「」

名護「私のことは、7・5・3、と呼びなさい」

R杏子「そんなのは聞いてない！」

さやか「リュウタロスまだいたのかよ！？ てか出てけ！」

名護「では、イクサに変身するにあたっての重要事項がある」

ほむら「……何かしら」ゴクッ

名護「それは『イクササイズ』だ！ さあ、私と一緒に！ 腕振りなさい」

ほむら「そんな暇はないわああああああ！！」

名護「そしてもうひとつ。『753は315です』！ さあ、言いなさい！」

ほむら「誰が言うかああああ！！ さつさと変身させなさい！」  
名護「駄目だ。これはイクサに変身するに当たっての必須事項なんだ！」

ほむら「じゃああなたよりずっと前からイクサだった人間はどうなの！？ してなかったじゃない！」

イクサ（杏子）「その命、神に返しやがれ！」

ほむら「ってまああた私をおいていくのかああああああ！！ これは私が主役なのに！」

杏子「753は315です！」

ほむら「ってもう毒されてた！？ 名護教に毒された！？ さやか「名護教って何だよ！？」

イクサ（杏子）「え？ イクサって『変身』と『753は315です』って言わなきゃ変身できないんじゃないの？」

全員（（ああ……この娘アホの娘だ……）（））

イクサ（名護）「さあ、次はディエンドだ」

ディケイド「ディケイドは使えるか微妙だからな」

巧「チノナマコが変身してたからな……制限は軽いのか？」

ディエンド（ほむら）「……何かいや」

巧「なんか似合ってるな」

杏子「やってること大して変わんねーもんな」

ほむら「あなたただけには言われたくないわ！」

#### 【ケース5 二人で一人？】

ディケイド「今回は特別仕様で、互いをよく思い、心を通わせている者同士で変身できるようにした」

ほむら「よし、これなら……！」

まどか「？」↑まだあまり仲良くなってない

さやか「やだよ」↑生理的に無理

マミ「私は別にかまわないわよ？」↑ぼっち安定。ていうかむしろ敵対状態？

杏子「ふぁ……眠い」↑ファイマギだとまだ会ってすらない

巧「俺も無理だな」↑信頼関係とか無し

ほむら「……私ってほんとバカ」

さやか「しばかれないのか己は」

#### 【ケース6 ハルルさん公認！ オーメダル適合】

ディケイド「さて、今回の本命というべき、オースだ！」

まどか「えっと、ここで活動しているハルルさんって人が作った適応事情を公認のもとでやらせてもらってます！」

巧「さて……ために俺が……変身！」

タカ！　トラ！　バッタ！　タットツバ！　タトバ・タットツバ！

タトバ（巧）「よし次……つて、おい！？」

さやか「まさか……メダル入んないの！？」

まどか「その人に適合しないメダルは駄目なんだって」

ほむら「まさかの不遇フォームのみ……無様ね」

タトバ「……なんだと？」↑切れた

スキヤニングチャージ！

タトバ（巧）「はあ！」

ほむら「そんなキック避けて……つて動けない！？」

デイケイド「あいつのタトバには、「タトバキックの際に相手の拘束」、「バッタの力の増幅」などが追加されてるみたいだな」

タトバ（巧）「やああああ！」

ほむら「ほむうつうつう！！」

ほむら「……で、私のメダルは……！」

タカ！　クジャク！　コンドル！　タ〜ジャ〜ドル〜！

タジャドル（ほむら）「ネタ的にこうなるのね次は……」

ライオン！　トラ！　チーター！　ラトラタ〜ラトラーター！

ラトラーター（ほむら）「スピードアップ的なつながりかしら……？」

さやか「ついでにあたしはわっと！」

シャチ！ カマキリ！ チーター！

シャキリーター（さやか）「タトバはできないかーコンボなんかできないか……」

シャチ！ ウナギ！ タコ！ シャシャシャウタ！ シャシヤシャウタ！

シャウタ（さやか）「なんか複雑」  
マミ「魚系だものね」

杏子「あたしはなんだろうーなーっと！」

タカ！ カマキリ！ チーター！

タキリーター（杏子）「なんとなーく察しがついた。これか」

クワガタ！ カマキリ！ バッタ！ ガーツタガタガタキリ  
ツバ・ガタキリバ！

ガタキリバ（杏子）「最初に言っておく！ 作者は本気で「バカキリバ」と打ち間違えた！」

巧「分身関係か」

さやか「どうでもいいけど13人って狙ってるよね明らかに」

マミ「さて！ 私は！」

タカ！ クジャク！ ゾウ！

タジャゾ（マミ）「アレ……？」

シャチ！ クジャク！ ゾウ！

シャジャゾ（マミ）「まさか……」

サイ！ ゴリラ！ ゾウ！ サッゴーズ・サッゴーズ！

サゴーズ（マミ）「何かいや！」

巧「女としてサゴーズは受け入れにくいだろうな。」

ディケイド「さて、誰か紫コンボやらないか？」

巧「流石に無理だろ」

さやか「そーそーそれに手を出せる奴なんて……」

プテラ！ トリケラ！ ティラノ！ プットツティラーノザ  
ウルスッ！

プトティラ（まどか）「あはは……」

全員「「「おいしいいいい！ 何やっちゃってんだああああー！」」」  
「」

まどか「ついでに言うとな全てのメダルに適合したよ？」

ディケイド「ここにきてまさかの女神パワーとは……」

~~~~~

ほむら「ちょっと冷静になって考えてみたの」
巧「どうした？」

ほむら「これ……やったところで結局本編で変身できないじゃない
……orz」

巧「……おい、なんとかならないのか？」
ディケイド「……無理だな」

~~~~~

フォーゼ（マミ）「うふふ……宇宙に来ちゃって怖くない！」  
杏子「ここに新たな名台詞が誕生しつつあったのだ……」

To Be Continued .

**FILE 2      【陳情！      ライダー変身！！後編】      （後書き）**

今回はめちゃくちゃでした；

次回は番外らしいことやってみたいです。

FILE 3 【絶叫！ 擬人化は恐ろしい！？】

まどか「巧さん！ 聞きたいことがあります！」

巧「まどか！？ どうした？」

まどか「あの、龍騎のライダーの数ってわかります！？」

巧「え！？ まあ、色々あるけど、基本は13人だな……… どうかしたのか？」

まどか「ほら、杏子ちゃんって、『ロツソ・ファンタズマ』っていう必殺技があるじゃないですか！」

杏子「あぁ〜ドラマCDか。あれは恥ずかしかった／＼／」

巧「それで？」

まどか「それでなんです、分身の数が13人なんですよ！？ ただでさえ龍騎に似ていると言われているのに、これって偶然なんですか！？」

巧「知らねえよ； まあ、確かに気になるな」

杏子「んなこと言われても……… あれは偶然だよ。あれはそんなときの段階だったし。確か、末期は50人ぐらいだったかなあ」↑あくまで作者の想像です

巧「Σ流石ガタキリバ適合者ここでもかぶった！」

さやほむ「「ぎゃあああああああああああ！……！」

全員「「「Σなんだなんだ！」「」

杏子「さやか！ ほむら……とキュウベえ？ 何があつた！」  
キュウベえ「わけがわからないよ……」

???「うう……」↑メイド服の少女

まどか「この娘誰!？」

巧「あれ……？ ここにあつたオートバジンは……？」

???「はっ！ ご主人様ああああっ!!」↑巧に抱きつく

巧「うおああああああ!!？」

さやか「ちょ……巧iiiiiiiiiiiiiiiiっ!？」

マミ「あら、やきもち？」

杏子「ちっ」

さやか「違いますから後杏子は舌打ちすんな!？ 巧、その娘がオートバジンだよ!」

巧「ああ、そうなのk……って待てええええええ!!？ どうしてそうなった!？ こいつが俺のバイクだとおおおお!!？」  
オートバジン? 「きゃっご主人様ったら『俺のオートバジン』なんて……」

巧「変な解釈すんな! なんてこつなつたんだ!？」

さやか「実は……」

~~~~~

キュウベえ「うわあああ!!」

さやか「うわっ!? 危なッ!」

ほむら「追い詰めたわ……これであなたも終わりよ……!」 つつ
ラスコ

さやか「ちょ……転校生! 何してるのさ!」

ほむら「冥土の土産に教えてあげるわ」

さやか「Σ冥土って何だよ殺す気か!？」

ほむら「これはいわば感情を持たせる薬! これを浴びたら最後、
キュウベえ、あなたには感情が生まれる!」

キュウベえ「それは困るよ! 感情が無いからこそ今の仕事をやれ
ているというのに……!」

ほむら「だからこそ……食らいなさい!!」バシヤア

キュウベえ「うわぁ!」↑かわす

さやか「ちょ……巧のバイクにかか……!!」

オートバジン↑薬かった

さやか「これだいじょ……ってなんか光りだしたああ!!?」

ほむら「しまっ……!？」

オートバジン「カツ!

~~~~~

さやか「……というわけで」

ファイズ「そうか……とりあえず、ほむらとキュウベえ……覚悟し

る！」↑グランインパクト

ほむら「ほむばっはあああああああ！！」  
キュウベえ「キュッぷい！」

オートバジン「改めてご挨拶を。私、ご主人様に使えるスーパーハイテクバイク『オートバジン』です。『バジンたん』とでもお呼び下さい」

SL「」

巧「おい……スマートレディイイイイッ！！？」

SL「まさか、こんなことになるなんて」

さやか「その人ですら混乱してるってことは、これ相当だね……ま、これはこれでいいんじゃない？ バジンたんかわいいし」

バジンたん「……気安く呼ばないで寝取られ女が」

さやか「誰が寝取られ女だああああ！！ 本編じゃまだ寝取られてないし！」

全員「……なにこれこの娘毒舌！？」「」

バジンたん「大体なんですかあなた、ご主人様とフラグ立てて……

餓鬼風情がご主人様をくつつけるなんて思うなよ」

さやか「それは作者の気まぐれかなんかだって！ ていうか機械が何を言うかああああああ！！」

杏子「さやか落ち着け」

バジンたん「そうです。出番無しの言うとおりです」

杏子「んだと影薄いバイクのくせしやがってえええええ！ ていうか一応先行登場してんだよ！！」

マミ「あなた達少し落ち着きなさい！」

バジンたん「一番落ち着くべきは本編のあなたですよね？（15話現在）」

マミ「……orz」

ほむら「くくく……ざまあ無いわね」

まどか「こういう皆も悪くないかも……」

バジンたん「そうですねー」

巧「なんでほむらとまどかとは馬が合うんだ!？」

SL「S属性ですね分かります」↑かくいうこいつもドSである

杏子「自分でいうのもなんだけど、あたしSだぞ……?」

さやか「あんた攻めだけど、実際は受けでしょ？」

杏子「ちくしゅうあたしに攻めの力さえあればさやかも……」

さやか「いやそっちの気ないから」

まどか「まあ、私に対してはドMだけどねー」ぐりぐり

ほむら「まどかあああもつと踏みつけて!」

巧「お前らは何やってんだあああああ!」

さやか「……」ごくり

巧「なんでお前はうらやましそうに!？ 公式でM設定だからか!？」

バジンたん「そーですかーじゃあこれでも食らいなさい」↑マシンガン発射

さやか「ぎゃああああああ普通に痛ええええええ!」ズダダダダダダッ

杏子「さやかあああああああ!」

巧「おい……いい加減にしろおおおおお!」

バジンたん「！」ビクッ

巧「こいつらを傷つける気なら……お前捨てるぞッ!？」

バジンたん「きゃああああごめんなさいごめんなさいごめんなさい  
ご奉仕しますからあああああ!！」

巧「んなもんいらんわあああああ!！　あと謝るなら他の奴らに  
言えええええ!！」

バジンたん「皆さんすみませんでしたあああああ!！」土下座

さやか「はあはあ……流石所有者!」

杏子「何気に興奮してんじゃねーよドMさやか!　てかあれいつ戻  
るんだ!？」

SL「下手すると……ずっとあのまま……」

まどか「なんだか怖いよ」

ほむら「感情がない機械でああなるのだから……キュウベえもまさ  
か……」

ほむら「……はっ!？」ガバッ

ほむら「……夢落ち……よね。ていうかそんな薬無いし……」

ほむら「……キュウベえが感情持ったら持ったらでめんどくさくな  
りそうね……」

巧「で、これ結局何が書きたかったわけ?」

まどか「本編のうつぶんばらし……ですかね？」

さやか「むしろさ、オートバジンヤンデレそうだね。……浮気は許さない』って感じでさ」

杏子「そっぴやファイズって別のバイク乗ってたよな。ジェットなんたら」

オートバジン『P i P i（訳：そんなことないもん）』

**FILE 3 【絶叫！ 擬人化は恐ろしい！？】（後書き）**

次回、ファイマギ超スピノフは！

??? 「たのもおおおお！！」

杏子 「誰だあんた！？」

士 「俺が連れてきた！」

巧 「何してんだお前はあああ！！」

??? 「龍騎代表として……戦う！」

杏子 「おもしろいじゃん……変身！」

**FILE 4 【戦慄！ カードバトル】**

——戦わなければ生き残れない！

巧 「最初に言っておく。あくまでギャグだからな！？」

## FILE 4 【戦慄！カードバトル】

さやか「しっかし、MADとか見ると本当にまどマギって仮面ライダーだなあ」

マミ「私の退場の仕方といい龍騎に似ているわね」

まどか「杏子ちゃんの必殺技とかね」

杏子「前回のくだりをまだ言うか」

士「よお」

まどか「あ、士さん」

巧「ディケイドか。どうした」

士「えーっと……ああ、アンコ。お前だ」

杏子「アンコじゃない！……で、何さ」

士「ああ、お前に文句があるっていう奴がいてな。ちょっと話してもらいたい」

杏子「はあ？」

「???」たのもー！」↑灰色のオーロラから登場

さやか「誰かキタアアア！？」

まどか「あれ？この子どこかで……」

サトシ「俺、マサラタウンのサトシ！」

全員「「Σなんで来ちゃったの!!?」「」」

杏子「てかなんで!? まさかのポケモン世界からこんにちは!?!」

サトシ「あれ、アイリス?」

まどか「サトシったら子供ね!……って違うよ!?Σ」

マミ「中の人ネタねわかります」

さやか「中の人なんていない!」

巧「お前が言くと元ネタ的な意味で怖いわ」

さやか「どうせ三角関係ですよ寝取られましたよあたし病みましたよこんちくしょう!」

マミ「大きなお友達にしかわからないようなネタは避けて!?!」

キユウベえ「そもそもまどマギ自体その大きいお友達が見るものなんじゃないかな?」

まどか「キユウベえがまともに突っ込んだ!?!」

キユウベえ「むしろ僕はそういうキャラじゃないのかな?」

ほむら「で? 一体何が言いたいのあなたは」

サトシ「アンコ! 龍騎代表として物申す!」

杏子「誰がアンコだあああああ!?! てかお前もそれか!? それ以前に代表って何だよ!?!?」

ほむら「中の人ネタね」↑龍騎OPはサトシの中の人

サトシ「13体分身って……ライダーバトルそのものだろ!?!」

杏子「あれはその時だけだっつーの!?!」

巧「かといって50近くもそれはそれでなあ……」

さやか「ANK48ってか」  
アンコ

杏子「AKB48みたいに言うな!?!」

士「よし、というわけでレッツライダーバトル!」

杏子「何でだあああああ!!?」

~~~~~

士「今回はリイマジ龍騎の世界でバトルだ」

ほむら「詳しく言うと、この世界のライダーバトルは比較的安全で、デッキを破壊されても強制的にミラーワールドから出されるだけよ」

サトシ「ここなら遠慮なく戦えるってわけだ!」

杏子「はっ! たかがガキンチョに負けるかよ!」

まどか「……そうでもないよ?」

杏子「は?」

まどか「サトシくんはこれまで幾たびの死線を超え、さらに超人的な運動神経を兼ね備え、一部では『スーパーマサラ人』って呼ばれてるの! アイリスちゃん情報!」

杏子「Σこいつ魔法少女じゃねえのか!?」

サトシ「少女言うな!?」

まどか「あ、あと女装させるとレベルが高い」

サトシ「それを言うなあああああ!」

マミ「あらあらちよつと見てみたいわね」

サトシ「本気でやめてくださいそれだけはいやだ!」

巧「デッキはくじでランダムに選ばれる、オーディンやらのデッキを抜いたライダーデッキから選ぶんだ!」

さやか「せっかくだから、あたし達もやりたーい!」

杏子「いやいや別にいいだろやんなくても!」

ほむら「確かに……ライダー気分を味わいたいわ……orz」↑フアイマギメンバーで一番の無力

杏子「……仕方が無い。やるか」↑場合によってはオルフェノク倒

せそうな人

マミ「そうね……」↑本編でオルフェノク倒してる人
???「お待ちなさい」

全員「「へ?」「」」

キリカ「私達も出るぞー!」

織莉子（以下『おりこ』）「私は付き添いみたいなものだけど……

まあ、キリカが出てくれて言うから……」

杏子「あんた漢字めんどくさいもんな」

おりこ「Σそんなこと言わないで!？」

巧「ていうかなんで出てきた？」

キリカ「ここにくれば魔法少女殺れると聞いて」

さやか「オイ;」

ほむら「よし決めた。こいつら殺すわ!」

キリカ「はっ! させないよそんなこと!」

士「まあ、それぐらいにして、くじ行くぞー」

巧「お前はスルーしてんじゃねえよ!」

~~~~~

ライア（おりこ）「……私の占いは当たるわ……」

タイガ（キリカ）「私は（おりこの）英雄になるんだ……」

全員「「はまり役だあああああ!」「」」

さやか「ぶっちゃけこれやりたくて呼んだろ作者あああああああ  
あ!」

マミ「それよりどうしてこんなにあつさり!？」

キュウベえ「これも全て乾巧ってやつの仕事なんだ」

マミ「なんですって!？ それは本当なの!？」

巧「オイコリアアアアア！」  
さやか「本当は作者の仕業なんだ」

~~~~~

龍騎（まどか）「つしゃあ！……これでいいのかな？」
ベルデ（ほむら）「まどかかわいいわまどか」
マミ「Σ暁美さんがやばいわ！？」
巧「よりもよってそれか！！」

さやか「あたしは……これか」
巧「俺はこれっと……」
マミ「私は……これは……！？」

~~~~~

士「よし、対戦表だ！」

1 回戦：マミVSまどか

2 回戦：キリカVSほむら

3 回戦：さやかVS士

4 回戦：おりこVS巧

最終戦：杏子VSサトシ

杏子「あたしは最後か。当然だけど」

士「まずは一回戦からだ！」

龍騎「……マミさんは一体なんなんだろう」

巧「観戦はライダー裁判を利用してミラーワールド用カメラでお送りする！ 司会は作者、解説は鳴滝だ！！」

鳴滝「おのれディケイド！」

キュウベえ「関係ないよね」

鳴滝「これを言わないと落ち着かないのだ！」

巧「自慢すんな」

キュウベえ「わけがわからないよ」

作者「それで、マミさんは一体どんなライダーなんだろう」

鳴滝「おそらく作者のおまえ小ネタ好きから、シザースの可能性が高いだろう」

ゾルダ（マミ）「手加減しないわよ？ 鹿目さん！」

全員「「「まさかの超火力うううううう！！？」」「」」

作者「おおっと、首仲間ではなくまさにファイナーレなゾルダとキタアアアアア！」

杏子「いやあんたの陰謀だろうが！？」



巧「まどかあああああああつ!!?」

作者「おおっと、煙がはれたぞおおお！ 果たしてまどかは……！」

龍騎「へ？」

ガイ「」

全員「「Σそっちのガードベントが来ちゃったあああああ  
あ!!?」」

作者「おおっと!? まさかの『そこにいたお前が悪い』が発動！  
歩くガードベントことガイが盾となつたああああ!!」

鳴滝「おのれデイクイド！」

サトシ「ていうかあのガイは誰だよ!？」

ガイ（さやか）「あたしはただ……幸せになりたかつただけなのに  
……ガクッ」

杏子「さやかあああああああああッ!!!!」

作者「あとそれはインペラーだから！」

鳴滝「しかし、本人の結末があれだけに違和感が無い！ おのれデ  
イクイド！」

ほむら「ふう……まどかが助かってよかったわ」フサア

全員「「ていうかあれお前の仕業だろ絶対!!」」

~~~~~

マミ「おかげで私達の戦いが無効試合になったわ……」

黒まどか「大丈夫です。あとでほむらちゃんにはサバイブでいたぶってあげますから♪」

巧「ひき殺す気か」

ほむら「うう……快感……」↑まどかに踏まれてる

キリカ「これ結局私の試合も無効じゃないのか？　そして私はおりこに踏まれたい」

おりこ「あのねキリカ！」

杏子「ほむらがあの状態だからなあ！」

さやか「」↑気絶中

士「ついでに俺達の試合も無効か」

作者「いくらなんでも展開めちゃくちゃじゃない？」

鳴滝「これも全て乾巧という男の仕業なのだ！」

巧「まさかの俺！？　お前はディケイドいじり専門だろ！？」

士「Σ変な解釈をするな！？」

士「おっと、もうこんな時間か。そろそろ帰るぞ」

サトシ「ええっ！？」

杏子「おい、あたし達なんもしてねえぞ！？」

巧&おりこ「俺（私）も」

士「よく考えて見る。こんな子供に戦わせられるか」

FILE 4 **【戦慄！ カードバトル】** **（後書き）**

何がしたかったのかって？ おりまギ勢書いてみたかっただけさ（え
今後はスピンオフではおりまギ勢もレギュラー入りです。

ちなみに巧が当てたデッキはシザースでした（え

FILE 5 【談笑！ 必殺技はロマン】（前書き）

今回から織莉子（以降おりこ）、キリカ、ゆまがレギュラー参戦します。

FILE 5 【談笑！ 必殺技はロマン】

おりこ「というわけで」

キリカ「私達もスピノフにレギュラー出演！」

ゆま「わーいキョーコー！」

杏子「ゆまー！」

さやか「……ちっ」

巧「なんだこのドロドロになりそうな予感……」

マミ「杏ゆまさやですわかります」

まどか「私達だけじゃあまり盛り上がりませんからねえ」

ほむら「ところであなた達本編にはでるの？」ジャキッ

全員「……とりあえず銃をしまえ……」

おりこ「一応登場説がさやかれているけれど……それよりなんなのこの平和な感じは。本編のシリウスはどこに……」

巧「これこそスピノフオリエー」

さやか「ていうか銃突きつけられといてそんなこといえるあんたがすげえよ」

まどか「そういえば！」

さやか「どうしたまどか」

まどか「マミさんって仮面ライダーみたいに必殺技ありますよね」

マミ「そ、それで？」

まどか「私達もあつたら必殺技がほしんですよ。まあ、私はわからないけど……」

さやか「本編だとあたし人間設定だかねまだ……」

杏子「まだって予定はあるんかい」

巧「でも、お前らも必殺技あるだろ。……ほむら以外」↑ポータブルで

まどか「ついでに言うとかずマギの魔法少女は必殺技持ってますよね」

ほむら「なんなの、この無駄にむなしい感じは……」↑執筆時公開されていいない

おりこ&キリカ&ゆま「」「私達に謝ろうか」「」↑無い以前に出番が絶望的

まどか「それに、私気になることがあるんです」
全員「」「？」「」

まどか「あるクロスSSでさやかちゃんが『ロイヤルストレートフラッシュ』使ってたんですけど、実際魔法少女に仮面ライダーの必殺技が再現できるのかなって」

巧「そういえばあったなそれ」

杏子「マミならできんじゃない？ シャウタとか」

マミ「それはどうということ！？ まさか歌詞関係！？」

杏子「いや、シャウタの必殺技の『オクトバニッシュ』、あれウナギのムチで相手を空中に投げ飛ばしてとどめにタコ足ドリルじゃない？ あれリボンで再現できると思うんだよ」

さやか「なるほどねー」

まどか「でも、そういつたらさやかちゃん再現できそうなの多いよね」

さやか「へ？」

巧「剣を使う必殺技はほぼ出来そうだし、二刀流にすればアギトシヤニングとかガタツクとかも再現できそうだしな」

杏子「あと刀身操って電王の必殺技とかな」

(妄想) さやか「必殺！ あたしの必殺技パート2！」

全員「……違和感がない」

さやか「オイ」

ほむら「……というか、美樹さやかにそんな能力があると思うの？」

杏子「あるかもな。もうちょい話長かったら色々と設定使えたのになー」

さやか「あたしへの嫌味かそれは」↑武器に未使用ギミックのある人
マミ「本編で美樹さんの未使用ギミック使えるのかしら」

さやか「そもそもまだ魔法少女じゃ無いですからね」↑18話現在
杏子「つーかさやかだけ万能過ぎないか？」

さやか「そう言ったら杏子だって幻惑の魔法使えばバーニングザ
ゴとかGKB48とか出来るじゃん！」

杏子「なんなんだそれは；」↑ギャレンの『バーニングデイド
、オーズガタキリバの分身能力です

さやか「あと、インペラーのとか」

杏子「あたしはただ、幸せに……ってこれはお前向きだろどっちか
というと！」

さやか「台詞の意味だろこんちくしょう！」

マミ「そういえば、おりマギのキャラクターにもいるかしら」

巧「キリ力ならタイガじゃないか？ ツメだし」

キリ力「私二人は必要じゃないかな？」

ほむら「美国織莉子は、むしろタブードーパントね」

おりこ「ナスカメモリ使いましたようか！？」

杏子「ゆまは……思いあたらねえ；」

ゆま「ぷうううう……」

巧「ハンマー使うライダーって……キバがいたな」

さやか「やったねゆまちゃん必殺技ができるよ！」

ゆま「わーい！」

杏子「ゆま騙されるなああああ！！ それ暴行フラグ！！」

マミ「もしかして『やったねたえちゃん』！？ 分かる人いるの！
？」↑ちなみに作者はピクシブ大百科で知りました

ほむら「そう思うと、巴マミのあの再現率は高かったわね」

マミ「草加ルート辿らせるわよ！？」

シャルロット「よんだ？」

マミ「きゃああああああああああああああああ！！」

さやか「なんでここに魔女がいるんだ！？」

SL「私が呼びましたー」

全員「「おまああああああああ！！」「」」

ほむら「ナイスよ。さあ、巴マミの頭を食いちぎりなさい！」

シャルロット「わたしにめーれーするなー」

ほむら「え！？ どうしてよ！？」

シャルロット「うるしやいわたしにしつもんしゆるなあー」

巧「どこのアクセルだお前は」

さやか「てか転校生は本気で一回自分の罪数えろ！」

まどか「どうせ私関係が全般だろうけど」

ほむら「失礼ねまどか。せいぜい下着とかあなたの口つけた食器ペロペロしたぐらいよ！！」

全員「「マジでド変態だああああ！！」「」」

黒まどか「……シャルちゃん。あの変態食ってよし」

巧「待て待て待て待て待てええええ！！？」

ほむら「↑ただいまマミられ中

黒まどか「さて……と」↑手パンパン

全員（（怖ええええええええええっ！！））

おりこ「私達、なんて娘を相手に……」

キリカ「なんだろう人間なのに勝てる気がしない」

マミ「暁美さん大丈夫なの？」

杏子「ギャグだから問題ない！」

ゆま「ねーねー」

杏子「どうした？」

ゆま「なんでマミおねーちゃんはその魔女に勝てたの？」

全員「「Σちよっ!？」」

マミ「それはね、私がぼっちだったからよ……orz」

ゆま「へーおねーちゃんってぼっちのほうが強いんだね！」

マミ「アアアアアアアアアアアアアアアアアア！！！」

まどさや「マミさんが崩壊したあああああ！！！」

杏子「ちょ……ゆまあああああ！！！」

ゆま「にぱー」

巧「子供って残酷!!！」

マミ「orz」↑心が折れた
ほむら「」↑瀕死状態

おりきり「なにこれひどい」

おりこ「ここは平和じゃなかったの!？」

巧「時折こんな状況になる」

さやか「ていうかカオスが普通」

キリカ「なにここ狂ってる」

杏子「お前が言うか!？」

さやか「あ、必殺技といえばクラヒ!」

まどか「ついに全ライダーに超必殺技がついたね!」

杏子「しかもファイズはついに通常クリスマスも! あとカイザ!」

巧「とりあえずガッツポーズしたな知ったときは」

キリカ「私わかんない」

さやか「……てか今の所これただだべってるだけだよね」

杏子「いんじゃね別に。平和なら」

巧「あいつら見ても言えるのか」

ほむら「」↑もはや死の淵

マミ「」↑ふて寝

おりきり「……はたしてここに来てよかったのだろうか」
ゆま「つづくー!」

FILE 5 【談笑！ 必殺技はロマン】（後書き）

次回予告！

巧「ファイマギメンバーで大喜利大会だ！」

さやか「どうしてそうなった」

杏子「作者の思いつき」

マミ「Σちよっ!？」

全員「「あははははは!!」」「」

巧「……ぷっ……!!」

マミ「いつそ大声で笑ってくださいよおおお!!」

FILE 6 【爆笑!? 大喜利大会】

巧「あ、座布団少ない奴には罰ゲームな。確か、『（バギューン）』だ」

全員「ええええええっ!!?」

まどか「こんなのってないよ!」

——笑わせなければ生き残れない!

FILE 6 【爆笑！？ 大喜利大会】

巧「ファイマギメンバーで大喜利大会だ！」

さやか「どうしてそうなった」

杏子「作者の思いつき」

巧「正直、今更感があるな」

ほむら「作者、大喜利好きだものね」

キリカ「大喜利か……昔は好きだったな」

おりこ（ごめんなさい。以前のあなたが笑ってるイメージが全くわからないわ……）

キリカ「それは仕方ないさおりこ。私見てて笑ってないし」

おりこ「Σ考えていたことが……って私達は大抵筒抜けよね」

巧「まあしょうがないし、始めるか！」

SL「というわけで、司会のスマートレディのお姉さんです」

巧「どうでもいいけどアルファベットが半角だったり全角だったり

して統一感がないな。司会その2乾巧だ」

まどか「えっと……一生懸命頑張ります！ 鹿目まどかです！」

ほむら「……曉美ほむらよ」

マミ「これを読んでくれている人達の腹筋を円環の理にでも導こうかと思えます巴马ミです！」

さやか「マミさんメタいです！ あ、美樹さやかです！」

キリカ「一生懸命頑張るぞー！ 呉キリカだ！」

SL「さて、回答者が出揃ったところで座布団運びのご紹介です」

杏子「『きょうこ』より『あんず』と打ったほうがいいことに定評のある佐倉杏子だー！ アンコじゃないだけマシ！」

ゆま「ゆまもがんばるよ！」

おりこ「なんで私まで……」

キユウベえ「今回は一番座布団を多く獲得した人には、小さな願いをひとつかなえてあげるよ！」

全員「「「おおっ！」」」

巧「ちなみに座布団運びの三人は確実に聞いてもらえるぞ」

座布団運び組「「「やった！」」」

回答者達「「「あれこれ私（あたし）達の方が負け組じゃない！？」」」

「」

SL「さて、それじゃあ一問目いっちゃいます」

回答者達「「「Σ無視！？」」」

巧「いよいよ発売日が近づいているクラヒ最新作！　そこで問題！

それでやってみたいことを皆さん流に答えてください」

杏子「これ本気で笑。だな」

ほむら「はい」

巧「ほむら早いな。答えてみる」

ほむら「クラヒでやりたいこと。シザースのクライマックスタイムを『マミさんのテーマ』にしてみたい」

マミ「Σちよっ！？」

全員「「「あははははは！！」」」

巧「……ぷっ……！」

マミ「いつそ大声で笑ってくださいよおおお……！」

巧「……ぷくくっ……　ほむらに座布団2枚」

杏子「はいよー！」

まどか「あ、はい！」

SL「はいまどかちゃん」

まどか「えっと、タジャドルコンボのクライマックスタイムを『コ

ネクト』に!」

巧「お、いいなそれ。1枚やってくれー!」

ゆま「よいしょっ! よいしょっ!」

杏子「ゆま頑張れー!」

さやか「もう杏子もお母さん呼ばわりされるよ」

杏子「誰が母だ!？」

ゆま「そうだよ! キョーコは『聖女』だよ!」

杏子「おい!？」

マミ「はい!」ノ

巧「お?」

マミ「シザースでカブトを倒したいです」

ほむら「シザースがあなたで私がカブト? なにそれ負ける気がしない」

巧「ゲームだからこそその組み合わせか……はい他」

マミ「貰えなかった……orz」

さやか「あ、そうだ! はい!」ノ

SL「はいさやかちゃん!」

さやか「ブレイドVSタイガ!」

巧「さやかVSキリカの擬似対戦!？」

SL「とりあえず一枚ね」

おりこ「はいどうぞ(こうでもしないと出番が……;)」

ほむら「……はい」ノ

巧「よし、ほむら」

ほむら「オーズのクライマックスタイムをシャ歌に」

全員「「それはシャウタへの冒険か!？」」

さやか「あんたシャウタの超必殺ないだろうことを知って!？」

超必殺でシャウタじゃないのにシャ歌が流れるとか酷すぎる!」

ほむら「肝心なところで手を抜くことに定評のあるクラヒにコンボ毎の超必殺なんてあるわけないわ!」

マミ「もしあつたら?」

ほむら「スピンオフ一生出ないわ！」

まどか「どうかコンボ毎に超必殺ありますように」

SL「ほむらちゃんに座布団1枚」

巧「……あ、座布団少ない奴には罰ゲームな。確か、『しばらくスピンオフの出演無し』だ」

全員「「ええええええつ!!?」「」」

まどか「こんなのつてないよ！」

巧「ついでに言うと、作者が最近コラボしたいって愚痴ってるみたいだからな」

杏子「関係ねえ!!」

さやか「……よし! ビリは避けよう！」

杏子「あたしなんていまだにスピンオフの住人扱いなのにこれ以上削られてたまるか!？」

さやか「いやあんたは大丈夫でしょ参加してないし!？」

SL「さて、飽きたんで第2問」

キリカ「Σああっ!? orz」↑今浮かんだ

おりこ「ちなみになんて？」

キリカ「……『ライアでタイガをボコボコにしたい』」

おりこ「言っておくけど私はライアじゃないわよ!？ そしてあなたはDMなの!？」

キリカ「君のためなら私は変態にもなれるよ!」

おりこ「じゃあ止めて頂戴!!?」

SL「第2問! あなたは地獄兄弟の仲間入りをしました! さて、地獄に堕ちる原因となつてしまった理由とは!？」

巧「本気で笑。じゃねえか」

キリカ「……おし! いくぜ!」ノ

巧「おし、キリカ！」

キリカ「恋人寝取られた！」

杏子「さやかのことかああああああ！！！！」

さやか「お前ら喧嘩うってんのかああああああ！！？」

SL「2枚あげてくださいーい」

さやか「ちくしょうはい！」ノ

巧「じゃあさやか」

さやか「マミられ」

マミ「みーきーさーんー」↑マスケツト銃構える

さやか「すいませんでしたっ！！」

巧「……さやかの一枚もってけ」

さやか「うわああああああああ！！」

ほむら「……爆死？」

さやか「誰がガタツクだ！？」

マミ「というわけではい」ノ

SL「はいマミちゃん」

マミ「リア充見てるのが辛くなったから」

全員「……おい」

マミ「リア充になれないなんて……死ぬしかないじゃない！」

巧「……3枚やって」

杏子「マミの奴無理やり座布団ゲットしやがった！」

さやか「……はい！」ノ

SL「はいさやかちゃん！」

さやか「絶望して心中図ろうとした人に殺されかけた」

マミ「……」↑マスケツト銃構える

巧「……マミの態度が悪いからマミの座布団一枚さやかに」

マミ「Σしまった！」

さやか「よっしゃあ！」

ほむら「……ついでに言えばその原因あなたじゃ」

全員「……下手なネタばれ禁止！」

巧「ここまでの座布団……いや、Count The Japan
esse cushion's！ 現在、まどか達の座布団は……」
さやか「Σ何でオーズ！？」

まどか：1枚

ほむら：3枚

マミ：2枚

さやか：1枚

キリカ2枚

杏子「まどかどーした？ 第2問喋ってすらいらないぞ？」

まどか「考えてたら時間すぎちゃった……ティヒヒ……」

さやか「まずいなあ……このままだとまどかと一緒に最下位だ……」

SL「はい第3問！」

巧「『にんげんだもの』、様々な格言の書かれた一冊だ。そこで、

『。。。だもの』の前にもしる格言をいれるのが今回のお題だ！

これが最後の問題になるから頑張れよ！」

マミ「はい」ノ

SL「はいマミちゃん」

マミ「間違えてもいいじゃない、相手が正しすぎるんだもの」

まどか「それママの名言参考にしました！？」

SL「はい、マミちゃんに2枚！」

ほむら（まずいわね……トップを取られた……！）

まどか「はい！」ノ

巧「よし、まどか！」

まどか「何も怖くなくていいじゃない、魔法少女だもの」

マミ「鹿目さん！？」

巧「マミから一枚抜いてまどかに」

さやか「おし、はい！」ノ

SL「はいさやかちゃん！」

さやか「必殺技作ってもいいじゃない、魔法少女だもの」

巧「マミの抜いてさやかに」

マミ「なにこれ私いじめ！」

ほむら「はい」ノ

巧「ほむら」

ほむら「心中図ってもいいじゃない、絶望したんだもの」

SL「ほむらちゃんに2枚！ マミちゃんからとってくださいねー

」

マミ「Σちよつと待って！？」

キリカ「はい！」ノ

巧「キリカ！」

キリカ「お礼をクレープにしてたっていいじゃない、食べたかったんだもの」

SL「はいマミちゃんから一枚抜いてキ」マミ「もう止めて私のライフと座布団は0よおおお！！orz」

巧「じゃあ答えるよ！ ちゃんとキリカに2枚やつとけー！」

マミ「……はい！」ノ

巧「マミ」

マミ「不器用でもいいじゃない、猫舌だもの！」

巧「……あ？」↑怒りのブラスターオーラ

マミ「……しまった」

巧「第3問、これで終わり！」

マミ「すみませんごめんなさいそれだけはあああああ！」

巧「……じゃあ最後に一人」

マミ「は！黒まどか「はい！」ノ」

マミ「ちよつ……鹿目さん！？」

黒まどか「いいですよねー？」↑破壊者オーラ

巧「よしまどか」

マミ「いやあああああ！！　せめて……鹿目さんが0枚になれば……！」

黒まどか「厨二だろうとぼっちだろうと死ぬしかなくとそんなのどうでもいいじゃない、マミさんだもの」

マミ「アアアアアアアアアアアアアアアアアッ！！！！！！」↑発狂

巧&SL「まどか（ちゃん）に3枚！」

杏おりきりさや「……最悪だあああ！！？」「」「」

ほむら「よくやったわまどか！」

オートバジン『P i P i（ざまあw）』

ほむら「！？」↑バジンに悪寒を感じた

結果

まどか：5枚

ほむら：5枚

マミ：0枚

さやか：2枚

キリカ：4枚

結果：まどか、ほむら同率一位。マミビリ。よって今後のマミの出番しばらく無し！

マミ「いやあああああああ……あ………」↑フェードアウト

~~~~~

マミの代わりに置かれた以前の短編で使われたシャルロット第2形態を模した筒に入ってたマミられたマミ風の棒「」

全員「……長いわ！？」「」

キュウベえ「さてまずは杏子からだね」

杏子「シャルロットをレギュラーにしてくれ」

全員「「「なんで!?!?!」」」

杏子「……あいつの作った菓子うまかったから」

キュウベえ「というわけで、今日から君は仲間だ」

シャルロット（以降『シャル』）「わーい」

ゆま「ゆまはねー、『主役回』がほしいー!」

キュウベえ「そこは作者との相談だね」

おりこ「私はキリカとの最低限の平穩を」

キュウベえ「それは……流れしだいだね」

ほむら「まどかをほむほむしたいd黒まどか「私はその無効化で」

」

ほむら「orz」

巧「お約束乙」

FILE 6 【爆笑！？ 大喜利大会】（後書き）

というわけで次回からママさんはしばらく出ません（ひでえ

その代わりシャルがレギュラー入りです。さて、シャウタの超必殺はあるのか……！？ 個人的にはあつてほしい！ ……あ、ついでに次回からは啓太郎と真理ちゃんと出しますね；

ちなみにコラボやりたいというのは本音だったり。募集つてわけじゃないですけど。来たとしてキャラを正しく書けるか分からないので；

FILE 7 「談笑！ 超ゲストと新展開？」

前回のあらすじ：大喜利で負けたマミはスピンオフにて謹慎を食らった。

マミの代わりに置かれた以前の短編で使われたシャルロット第2形態を模した筒に入ってたマミられたマミ風の棒「

杏子「長いっつーの！ つーかまだあったのか！」

さやか「ていうかマミさんあの後ケーキやけ食いた拳句にロールケーキにシャルロットって書いてフオークで滅多刺ししてシャルロットの怒り買ってマミられたよね」

杏子「自業自得だな。食いモン粗末にすつから……」

さや杏ほむ「「とりあえず、後日談書いてくれたトーマスさんに感謝」「」

さやか「でもさ、ちょっとかわいそうな気がするね」

杏子「出番無いんだもん。まあだからといってあれはなあ……」

ほむら「陳情……ね」↑口のバラ啞えながら

杏子「Σほむらっ！？」

さやか「血い出てる！ 茨で唇切ってる！」

ほむら「あら本当ね……まどか！私の唇を……！」

まどか「この雑巾で拭いてろ」↑雑巾投げる

ほむら「ぶふっ！？」↑雑巾顔にかかる

さやか「……クサッ！ なにこれ牛乳拭いて長時間たった雑巾じゃん！」

まどか「犬にはこれでいいだろ」

さやか「なにこれまどかじゃない」

まどか？「まどかだよさやかちゃん」

マミ？「止めなさい鹿目さん。迷惑かけないの」

さやか「」

杏子「」

ほむら「」

マミ? 「」?

三人「「「ちょっと待てなんでここにマミ(さん)(あなた)がああああ!?!?」「」

マミ? 「居ちゃいけない!?!?」

杏子「お前罰ゲームで謹慎食らってんだろ!?!? 出てくんな!?!?」

マミ? 「それはここの私の話でしょ?」

杏子「そうだよk……ここの?」

巧「あ、もう来てたのか」

さやか「巧、これどういうこと?」

まどか「あれ!?!? 私!?!?」

ほむら「まどかが二人!?!? なんて私得!?!?」

さやか「オイ」

杏子「どういうことだおい!?!? さやかもほむらも二人居るぞ!?!?」

さやか? 「ここがファイマギの世界か」

ほむら? 「ほむ!?!? ほむほむっ!?!?」

さや杏子まど「「「「いやいやほむら(ちゃん)がおかしい!?!?」」

ほむら「なんで『ほむ』しか言えないのもうひとりの私!?!?」

??? 「あ、ごめんなさい迷惑かけちゃったみたいで!?!?」

さやか「おお!?!? なんだこの男の娘は!?!?」

さやか? 「あかりは僕っ娘だぞ」

あかり「止めてくださいそういう風に言うのは…」

巧「こいつらはLight or Darkさんが連載中の『魔法少女まどか マギカ×オルフェノク』みんなで起こした、奇跡だよ」  
「から来たレギュラーメンバーだ」

邪神組「『よろしくおねがいします』」  
「ほむら『ほむほむっ！』」

全員「『ちよつと待て『邪神』！？』」  
巧「ついでに言うところらどつちかというとその超スピンオフ作品の『ライトオアダークキャラによる邪悪混沌残虐暗黒円環悪魔神戦記』の設定だからな」

杏子「いやちよつと待て！？ それは置いて、そっちのあたしは！？」

邪神組「『（執筆時現在）まだ本編に出てないんで今回カットの方向で』」

杏子「あっちのスピンオフには出てんのに……orz」

~~~~~

さやか「まあ、要するにあたし達と同じ『555×まどマギ』クロス作品なんだね」

あかり「ついでに言うところらどつちかというてもオルフェノク設定だけですからね……まあ、ネタばれになるんで深くは言えませんが」

SL「ついでに言いますとスピンオフ、これからいろんな作品とのコラボ篇突入です」

全員「『メタい！』けど説明ありがとう！』」

巧「どうでもいいが今回は半角か」

まどか「巧さんもメタ発言は控えてください！」

「マミ」それにしても、ここの私達ってなんだか個性が……」
まどか「個性ないとても？」↑黒オーラ放出中

さやか「そっちのマミさんいえどぶっ飛ばしますよ？」

ほむら「ほむら流『パイロキネシス』食らいたいの？」

杏子「殺すぞ」

「マミ」そっちの佐倉さん少しはオブラートに包んで！？ という
か何この私の扱い！？」

巧「前回で開花した、マミ弄りだ」

「マミ」orz」

「ほむら」ほむほむw（訳：ざまあw）」

「まどか」それにしてもマミさんすみすぎじゃ？」

ほむら「基本『巴マミ』というキャラはぶれることがないから」

「マミ」Σちよっ……！？」

ほむら「ついでに言うところとした打ち合わせの際にあつちの作者から『マミ：お姉さんでまとめ役で重度の厨二病。技名はイタリア語。あとダディメンタル。』って説明されてたわよ？」

さやか「Σメタすぎるぞ転校生！？」

杏子「ていうかなんて通常運行」

ほむら「こっちの巴マミと一切違和感無いじゃない」

黒まどか「もう『J』いらなくないですか？」

「マミ」私の存在全否定する気！？ ていうかここの鹿目さんも黒い！？」

暗黒円環悪魔神まどか「……どういことですかぁ」もっかい言
つてみる」

「マミ」「ごめんなさい！」

さやか「なにあのまどか！？」

あかり「たまーに……と言いますが、ああなっちゃうんですよボク達の方のまどか！」

巧「あれが噂の『暗黒円環悪魔神まどか』か……」

「さやか「こらまどか！ そんな娘は……こうだ！」↑くすぐり攻撃
「まどか「キャハハハッさやかちゃんくすぐりたいよお！」
ファイマギ組「「戻った!?」「」

あかり「なぜかさやかのくすぐりで戻るんだよ；」

「ほむら「ほむっ！」

あかり「ついでにほむらはこういうキャラ設定立てた頃からずっと
ああなんだよ； せいぜい自分の名前が『ほむ』としか喋れなくて；

」

ほむら「どうしてそうなったああああ!!」

「まどか「ほゝむらちゃん」

「ほむら「ほむほむ」↑頭なでなで

ほむら「……でも、なんだか悪くないかも……」

「さやか「おいそっちの転校生!？」

まどか「ところで啓太郎さん達は？」

巧「おりこの家でお茶してる」

~~~~~

その頃、おりこの家の庭

キリカ「はにやあゝ平和だ」

おりこ「出番減ってるけど、なんだか今回は参加しなくて正解だった気がするわ」

真理「シャルロッテの作るお菓子おいしいわね」

ゆま「ねー」

啓太郎「はいシャルロッテちゃんチーズケーキだよ」

シャル「わーい」

~~~~~

ファイマギ組「「なんだろう、前回に続き参加してる方が負け組みたいな感覚」」

杏子「ていうか今日ゆまいねーのかよお……」シュン……

「さやか「まあまああたしらがいるじゃん」

さやか「そーそー」

杏子「Wさやか……そうだな……よし！今日はWさやかで両手に花じゃあああああ！！」

さやか「ちよつと杏子！？キャラが壊れてるって！」

「ママミ「落ち着きなさいそっちの佐倉さん！」

杏子「るせーばーか！こっからはR-18指定タイムだぜええええええ！！」

全員「「どうして壊れたあああ！！」」

まどか「そういえば最近杏子ちゃん言ってたよ！『欲求不満』だつて！」

さやか「なにそれ！？」

あかり「杏さやですわかります」

「ママミ「むしろ杏さやさやね」

ほむら「ていうかもう一人の自分が来なかったことへの苛立ちやそのほか様々な感情が爆発してしまっただようね」

ファイズ「とりあえず、頭冷やせ」↑クリムゾンスマッシュ

杏子「ぐばあ！」

全員「「某魔砲少女みたいに力で押さえつけた！？」」

あかり「助かりました！こっちのさやか下手すると覚醒しちゃうんで……」

「さやか「覚醒？」

黒まどか「ああ……こんな感じ？」

Wさやか「「いだあ！」」↑蹴られた（しかしある程遠慮気味）

全員「「ナニヤツテンダアンタ!?」」

暗黒円環悪魔神まどか「あゝ、なんか面白そう」

「ほむら「ほむブツ！」」↑暗黒円環悪魔神まどかに蹴られた（但しフルパワー）

ほむら「ぎゃあー！」↑同上

全員「「やばいどっちのまどかも黒覚醒iiiiiiiiっ!」」

「Jマミ」でも何でかしら本気じゃない分そっちの鹿目さんが優しく見えるわ!」

あかり「いやでもやってることは同じですから!」

巧「残念!」

「Jマミ」古っ!?」どこのギター侍ですか!」

さやか「ちよっ……痛気持ちいい!」

「Jさやか」いやん……もつと踏みつけてえええええっ!」

全員「「そしてWさやかも覚醒iiiiiiiiii!」」

あかり「こっちのさやかは隠れ超DMなんです!」

巧「こっちのさやかは公開DMううう!」

「Jマミ」結局どっちもDMなの!」

杏子「ぐっ……まずい、早く手をうたねえと!」↑元に戻ったけど

ボロボロ

あかり「でも……こっちのさやかがあれじゃ……!」

暗黒円環悪魔神まどか「おら喘げ犬」

「Jほむら」ほむっ!」ほむっ!」↑興奮状態

ほむら「……」

暗黒円環悪魔神まどか「あれ? そっちのほむらちゃんはどうしてだんまりなのかな?」

ほむら「……違うわ」

暗黒円環悪魔神まどか「あ？」

ほむら「こんな蹴り……私のまどかじゃない！ だから興奮できないわあああ！！！」↑変身

暗黒円環悪魔神まどか「なっ！？」

全員「「おおっ！ ほむらが立て直した！ 理由が不純だけど！」

「」

ほむら「……ハイパークロックアップ！」↑盾稼動

ほむら以外「↑止まってる

ほむら「……よしっ！ 今しかない！」

……カチッ！

ほむら「どう？」

「さやか「……」↑快樂におぼれた顔

暗黒円環悪魔神まどか「！？」

さやか「あれ！？ いつの間に転校生が暗黒円環悪魔神の脇を上げてあっちあたしを抱えてその腕を暗黒円環悪魔神の脇に……！？」

暗黒円環悪魔神まどか「なっ……！？」

「さやか「……ふえっ？ なにこの状況！？」↑正気に戻った

ファイマギ組「「おおっ！ 戻った！」」

あかり「ついでに言うと言醒したときのことは覚えてないんです！」

「さやか……よくわかんないけど……くらえ!」

暗黒円環悪魔神まどか……ア

「まどか「くすぐったいよお……アハハハッ！」

~~~~~

「さやか「まあまあしょうがないって！」

杏子「何がしょうがないんだか」

「まどか、特に私なんて……」

ほむら「気にしないことね」

全員「いや今後からするべきだろ！」

さやか「結局今日もただべってるだけだったけど（途中からあれだったけど）、楽しかったよ！」

あかり「ボク達もです！  
いつか、また会いましょう！」

ほむら「特にあなたは大きく動かしてもらえなかったものね」  
あかり「orz」

全員「「ほむら……お前の罪を数えろ！」」

ほむら「しまった……ごめんなさい失言でした許してください……ア  
ッー！」

ほむらは全員にリンチされた挙句に丸一日つるされましたとさ

SL「めでたしめでたし」

全員「「Σいやめでたくないし！」」

FILE 7 「談笑！ 超ゲストと新展開？」（後書き）

はい、というわけでコラボ企画第一弾、Light or Dark  
kさんでしたー！ 個人的にはもうちょつとあかりを動かしたかつ  
たなあ； お気に召していただけたらと思います。

次回もコラボ行きますんでよろしくお願いします！ はたして、次  
は誰でしょう？

## FILE 8 【雑談！ グダグダと悩みとフリーダム】

さやか「いやー前は大変だったねー」

杏子「おまけにこないだはコラボ先でな……」

黒まどか「ほんとにね」

ほむら「コラボ先では本当にすみませんでしたorz」

まどか「それで、今回は誰とコラボなの？」↑怒りが治まった

巧「連れてきたぞー」

オートバジン『↑謎の少女を何度も轢き飛ばしながら

全員「「なんかサバイプよりエグイことしながらやってきたああああ……」って見たことあるっていうか最近見たああああ！」

「

「「ホント、その節はすみません許して」

「「まあ当然の結果だな」

巧「というわけで今回はトーマスさんが連載中の『仮面ライダー×魔法少女×魔法少女 ディケイド&リリカルなのは&まどか マギカ クロス大戦』とコラボだ」

ト士「よろしくな」

夏海「ここがファイマギ……のスピノフの世界ですか」

巧「その解釈は間違ってる」↑主にほむらなどがほぼ別人レベルなのは「大丈夫かな？ この作者リリカルなのは知らないらしいけど……？」

オートバジン『↑

はやて「もう堪忍やーいつまで轢かれるん！？」

さやか「銭湯での恨み忘れたわけじゃないから」↑ナイトのデッキとサバイプ疾風持ちながら

はやて「もう堪忍してー！」

Ｔマミ「私は……どこ？」

Ｔ杏子「どっかのロストみたいなのを言うな！？」

まどか「またマミさん来た！？」

杏子「もう何のために謹慎処分にしたんだっていうかあたしキター！」

ＳＬ「というわけで、本日のお客様は土さん、夏海さん、なのはちゃん、はやてちゃん、マミちゃん、杏子ちゃんでーす、土さんとまどまぎ勢には『Ｔ』をつけていまーす」

巧「一応こっちにもディケイドはいるしな」

キバット「おい、俺達を忘れるなー！」

ワタル「まあ、僕達元々出る予定なかったんですけどね」

ソウジ「全くだ」

フィリップ「検索。ここはファイマギの世界だ」

翔太郎「いやそれさっき言われてるからな」

ファイマギ組「こぼしすぎだろっていうかトーマスさんのフリーダム三本柱揃った！？」

さやか「ていうかワタルにいたっては明らかに向こうのマミさんの独断だよね！？」

Ｔマミ「何か文句でも？」↑マスケット銃構えながら

さやか「いえ何も！」

まどか「えっと……確か生卵さん！」

翔太郎「ハアアドボイルド！！<sup>ハーフ</sup>もはや半熟ですらねえじゃねえか！」

黒まどか「まあ、どの道興味はないですけどね」

翔太郎「グバツ！」

フィリップ「翔太郎が吐血しながら倒れた！？　しっかりするんだ

翔たろおおおおお!!」

「マミ」翔太郎さんとフィリップさんはもう退場ね」ズズズ……  
全員「「紅茶すすりながら言ってるじゃねええええええ!!」」

「巧」なんだこのTHE・フリーダム!？」

ワタル「あれが僕達のマミです」

「マミ」あらいやだ『僕のマミ』だなんて」

「ファイマギ勢」「コラコラさりげなく捏造するな!？」」

「マミ」別にしてませんよ？訂正だけです。私は一人しかいないの。だから『達』なんておかしいわ。私はワタル君だけのもの……もしも私やワタル君に手を出すなら……このコウモリカンドロイドのようになってもらうわ」↑キバット握りつぶしながら  
キバット『↑つぶされて缶状態

全員「「キバットオオオオオ!!」」

「杏子」いい加減にしるよマミイイイイ!!」

「ファイマギ組」「もうそのマミはヤンデレって呼ばれるよ!？」」

「杏子」ああ……胃が痛くなってきた」

杏子「ほんと、苦労人だなそっちのあたし……いいよ、一緒にツッコみやってやるよ

。一人ぼっちはきついもんな」

さやか「つーわけで巧力モン」↑一応ボケ・ツッコミ両用

巧「俺もそっちか!？」↑そうです（笑）

まどか「むしろ常識人として巧さんにはそっちにいてもらわないと！私はほむらちゃんへのツッコミ（と書いて『暴行』と読む）で手いっぱいです！」

ほむら「ほむふふ……」↑大絶賛踏まれ中

全員「「もうやだこの変態!」」

巧「本気でこいつ誰だ!？本編とのギャップが激しすぎる!」

杏子「何をいまさら」

~~~~~

「土」で、何をするんだ？」

巧「そうだなあ……」

ソウジ「皆、ケーキが焼けたぞ」

「マミ」紅茶も入れたわ」

まどか「あ、ありがとうございます」

ゆま「あ、ケーキだ！」

おりこ「いいタイミングで来たみたいね」

キリカ「いーじゃんいーじゃん！　おりこ、一緒に食べようよ！」

真理「……」

啓太郎「ん？　真理ちゃんどうしたの？」

真理「あのマミちゃんに苦手……こないだ襲われかけたし」

巧「安心しろ。今度やってきたらブラスターで撃ち殺す」

なのは「その時は協力します」

全員「「こわっ！」」

巧「そういやお前こないだ『頭冷やさせるなら超強化クリームゾンス
マッシュ打て』って言ってたよな！」

全員「「鬼かつ！」」

ほむら「……魔王？」

なのは「……誰が魔王なのかな？　頭冷やす？」

ほむら「ごめんなさい！」

杏子「で、このままだといつもみたいになべってるだけになるぞ？」

「杏子」あたし的にそっちの方がいい……マミが馬鹿騒ぎしなけり
や……」

「マミ」うふふ……あ〜ん」

ワタル「一人で食べられますから放っておいてください」

おりこ「キリカ、あーん」
キリカ「あーん」

ゆま「ゆまもー！ あーん」

杏子「……しょうがねえなあ……」

「杏子」……さやかにしてもらいたいなあ……」

ほむら「ま、まどか……」

まどか「丁重にお断りさせていただきます」

なのは「ところで、誰か足りないような……」

オートバジン『P i P i P i（訳：死ねええええ！）』

ナイトサバイブ（さやか）「うおらあああああああー！」

はやて「もう本気で堪忍やー！！」

「マミ」まだ轢かれてますよ」

真理「もつとやっちゃって」

まどか「そういえば真理さんも被害にあってましたよね……」

ファイズブラスター「……ちよつと消してくる」

啓太郎「本編より真っ先に出ちゃったよ！」

翔太郎「ぐふっ……帰ってきたぜ」

杏子「こいつ、案外豆腐メンタルじゃねえのか？」

フィリップ「まあ、照井竜を見習って欲しいというのはあるね」

翔太郎「フィリィィィップッ！！」

まどか「むしろ、生卵の白身みたいなメンタルじゃないかな？」

翔太郎「もはや形をなしてねえじゃねえか！　せめて、せめて黄身

に！！」

フィリップ「変な妥協はよしたほうがいいよ？」

T士「しかし、ただの話し合いも力オスだな」

おりこ「まあ、それがここみたいですし」

キリカ「おりこもだいぶ順応してるね」

おりこ「むしろ順応しないと逆に駄目になりそうよ……」

ソウジ「いっそ、杏子ちゃんも順応したらどうだ？」

T杏子「無理だあああ！ あんたら放置したら物語絶対止まる！」

巧「まあ、ぶっちゃけ詰まった時の苦し紛れにフリーダムにアドリブさせてかさ増しとか出来るけどな」

全員「「駄目アドバイスすんな！」」

さやか「ふー楽しかった……まあ、確かにツツコミは大変だよ？」

まどか「楽しかったって……」

はやて「うおお……ようやく……解、放……ガクッ」

なのは「まあ、分からなくは無いかな」

杏子「オイオイあいつスルー！」

ワタル「キバツトみたいにほっとけばいつの間に復活しますから問題ないです」

T士「そういえば、ファイマギって救う気あるのか？」

巧「どうなんだ作者？」

作者「……ぶっちゃけ、無い」

ファイマギ組「「orz」」

巧「なんでだ!？」

作者「まあ、誕生秘話になるけどさ。元々はディケイドとかオーズとかの見て他のライダーのクロスは無いかと探して、ファイズとかが見つからなかったわけ」

全員「「ふむふむ」」

W杏子（「……なんか、もうコラボする必要ない気がするけど黙っ

ておこう……)」

作者「んで、無いなら作ればいいじゃないと考えてアイデア練り始めて、元々はリイマジ……尾上タクミがまどマギの世界に迷い込んで……って感じだったわけ。その後知り合いからリイマジはあまり評判よくないって聞いて巧にしたんだけど」

T組「……うっわタクミ(くん)(さん)不憫!」「」

作者「でさ、初期までは最初のとあまり変わらなかったんだ。だけど、色々出そうと考えてたら、なんか救済がテンプレぽくってなんか気に入らなくて、人気出るように新しい展開組み込もう! と思っってます『マミがマミりかける』というのがその時点で決まって」

Tマミ「orz」

作者「で、さやかも結構悩んだけど、やっぱり愛が合っても展開は変えられないし」

さやか「だからあんた『第二の虚淵』とか言われたんだよ……! orz」

作者「あと、元々ほむらもあんな草加になる予定じゃなかったし」
ほむら「じゃあ何故そうしたの!? スピンオフとほぼ別人レベルになるくらいに!」

作者「だって、ほむらが正当化ばっかされてさ、もっと悪役ぽくっていいんじゃないかと思って」

ほむら「私は……正しい! orz」

杏子「どこの草加だ」

さやか「むしろ初期の名護だ」

作者「でも、結局まどかは目立ててないんだよね」

まどか「orz」

ほむら「どうしてなの!? どうしてまどかがそんな扱いを!」

さやか「じゃあ何!? 本編でのあの黒さは苦し紛れ!？」

作者「いや、一応理由とかは考えてるけどさ。ただ、ね」

ほむら「何!? 何なのよ!」

まどか「……もういいよ。大体分かってるから。私、元々影薄いも

ん……！」

ほむら「そ……そんなことないわ！」

原作若干ネタバレ注意！

1話：主人公らしい（？）登場だが、早々マミにスポットライトが

2話～3話：さやかがフラグを立てはじめる。マミがもはや主役

4話～8話：さやか マギカ

9話：杏子マジ聖女

10話：ようやくスポットライト。だが『主人公』らしい活躍は少ない

11話：もはやほむらが主人公

12話：ほむら「私達の戦いはこれからだ！」 まどか「頑張つてねティヒヒ！」

ほむら「orz」↑フォーロー出来なくて落ち込んだ

まどか「結局、出番も主役も無いんだよ……！orz」

「マミ」「ごめんなさい……でも、私すぐにあれだったし……！」

さやか「ほら、あたし鬱担当だし、できれば代わってほしいくらいだよ……！」

W杏子「あれだけはほんとゴメン」

ほむら「そんな……こんなところで私はまどかに……！orz」

夏海「ぐすつ……分かります。空気になりがちな気持ち……！」

おりこ「私だつて……私だつて！」

おりまぎ若干ネタバレ？ 注意！

・発売前はゆまがおりこと呼ばれていた。ていうかその時点はおりこのデザインすら出なかった。

・1話から早速空気

・今のところ2巻という短い話（かずみ マギカは連載中な上に現在11話。明らかに2巻以上）

おりこ「私だつて……結局『主人公（笑）』だつたのよおおお！
巷じゃ『白バケツ』と呼ばれるし！」

キリカ「お、おりこごめんなさああああい！！ 出番……出番食べ
ちやつてええええ！！」

まどか「ほんとですよねえ……」

おりこ「ええほんと……」

まどおり「あなた達主役級はいいよねえ……！！」

全員「「地獄の住人と化したああああああ！！」」

まどか「巧さあん……主人公の座くださいよ……中の人のよしみで
……！」

おりこ「曉美ほむら……懺悔の為に……出番よこしなさい！」

キリカ「ごめんなざいいいいいもどつでぎでえええ」↑号泣

Ｔマミ「ふう……ここは私に任せなさい二人とも！」

まどおり「え？」

Ｔマミ「ソウジさん！ キバット！」

ソウジ「ん？」

キバット『ううん……？ 天使か……つていやあああまだ死にた
くねえええええ！ マミねーちゃんやなのはねーちゃんの胸を堪能
するまではあああああ！』

Ｔマミ「……死にたい？」

なのは「冷やされたいのそんなに？」

キバット『すんませんでしたあああああああ！！』

まどか「あ、あの……」

巧「いやな予感……」

Ｔマミ「さあ、あなた達も全てを悟りなさい！ そして、自由とな
りなさい！ フリーダム精神を手に入れなさい！」

さやか「どこの７５３だ」

ソウジ「気楽だぞ？」

キバット『目立てるぜえ？ 待遇はともかくよお』

おりこ「フリーダム……それって、下ネタとか下品なことするのよねえ？」

Ｔ杏子「お前はフリーダムをなんだと思ってんだ！？ それそのコウモリ限定だから！」

Ｔ士「まあ、少なくともグダグダにはならなさそうだな」

巧「というわけで、今回はいかに空気にならないかの講義だな」

真理 & amp; 啓太郎「なにそれ聞きたい」

Ｔ士「お前も聞いたらどうだ夏ミカン」

夏海「夏ミカンって呼ばないでください！」

~~~~~

Ｔマミ「まず、いかに自分を出すかよ」

ワタル「マミの厨二や僕への嫌がらせに自由人……これだけで目立ってますし」

Ｔマミ「私……あなたにとってその程度なの？ 私の愛があなたにとっては『嫌がらせ』なの……？ なんで、なんでそんな態度なの……？ ねえ、私を見てよ……ねえ！ Love me do！

Look at me！」

さやか「なにあのマミさんすっげえぶん殴りたい」

ほむら「ようするに、ヤンデレもステータスね。まあ、こっちのバマミもそうなんだけど……」

まどか「そういえば、フリーダムなのを除けば私達のマミさんをあまり変わないよね」

キュウベえ「おそろくもう『バマミ』という概念には『ぼっち』と『厨二』と『メンタル弱い』が定着してしまっているのかもね」

Ｔ杏子「このキュウベえすっげえ毒舌」

杏子「でも、間違っちゃいないのがなあ……ホントむかつく」

巧「ここまで来るともうフォローできないぞ」

さやか「巧も黙認しちゃったよ！」

なのは「とりあえず、マミさんは落ち着かせたから続けていいよ?」

「マミ」↑犬神家状態。一応スカート部分はタオルで見えなくしてます

全員「「「どうやってあの『ワルプルギスの病み』を沈めた!?!」」」

「ほむら」もはや巴マミの病みレベルワルプルギス級!?!」

~~~~~

「????」へくちっ!」

~~~~~

さやか「今の誰? どうかからくしゃみが聞こえたけど」  
巧「詳しくはトーマスさんの小説を見てくれ」

キバット『まあぶっちゃけ、自分の欲望をさらけ出せ! ってな。  
現にここのほむらはそれで成功してるだろ?』

ほむら「ええ……一応ね……!」↑実は認めたくない  
まどか「……皆を弄り倒したい?」

ファイマギ組「「ドSだけは止める。魔法少女じゃなくても世界滅ぼしかねない」」

まどか「さすがにそこまでじゃないよ!」  
おりこ「……キリカと二人っきりで過ごしたい」

キリカ「おりこ、私はもう準備OKだよ! 純潔捨てる覚悟も!」  
全員「「「下ネタ自重!」」」

巧「ていうか、若干自暴自棄になってないかあいつ!?!」  
真理「……なんでだろ。純潔という単語にトラウマが……」

啓太郎「……ファイズ正伝？」

巧「戻って来い。俺達はテレビ版ファイズの人物だ！ 小説版じゃないぞ！」

ほむら「まあ、あの草加はほんと屑よね」

まだか「ゴメン。それほむらちゃん人のこと言えない。隙あらば私

（性的意味で）襲おうとしてるくせに！」

ワタル「身近にそんなのがいた気がします」

キバツト「ワタル。流石にねーちゃんはカウントしないで上げよう」

ぜ……ヤンデレて無理心中図るかもしれないぞ!？」

ワタル「その時はキバットもろとも絶滅タイムです」

キバツト「容赦ねえなっていうかなんで俺までええええええ！！？」

ソウジ「あとはキャラ崩壊だな」

まどか「それは……諸刃の剣じゃ……？」

なのは「大変なんだよ? キヤラ崩すのも。ほら」

「杏子、マミイイイ！　くそ！　抜けない！　誰か、誰か助けてくれええええ！」

なのは「杏子ちゃんだつてまさにいい意味でキャラ崩れてるのに、そのせいで胃痛に悩まされてるんだよ?」

杏子「おい……鋼のメンタルはどこにいつちまったんだ……」

さやか「円環の理に導かれた？」

まどか「止めてよそんなこというの！」

真理「正直、トラウマ抱えてる時点でメンタルとかそれほど強くないと思うんだけど。なんだかんだ言っただけじゃ……」

杏子「……orz」

啓太郎「まゝりゃん？」

真理「ごめんなさい言い過ぎましたああああ！！」

巧「あと何気に作者の自己解釈を晒すな。叩かれたらどうする」

夏海「でも、私はどうすればいいんですか!？」

ンデレでもない……ごくごく普通の私はどうすれば!？」

まどか「私がダメなんですから、夏海さんもダメですよきつと……」

夏海「orz」

さやか「……なんかもう、ソウジさんが何か言ってくれば解決しそうなんだけど」

ト土「大体分かった。教祖か」

巧「でもあのカブトは別人だああああ！　なんとなく似てるけども！」

ゆま「……もう、かげがうすいとかそんなのどうでもいいよ！」

杏子「ゆま!？」

ゆま「おねえちゃんたちはかげうすなんかじゃないよ！　だって……かげのない人なんていないんだよ？　まどかおねえちゃんも、みかんおねえちゃんも生きてるんだよ？　一人一人、こせいがあるんだよ？　それだけじゃだめなの？」

まどか「ゆまちゃん……」

夏海「というか、私ミカンって覚えられてますよ!？」

ゆま「まどかおねえちゃんは誰にだってやさしいもん!　……たまにくるいけど。みかんおねえちゃんだってきれいだしかわいし、あんなもやしさんといっしょにいるなんてもったいないぐらいだよ！」

ト土「誰がもやしだおmゴブツ!」↑殴られた

杏子「邪魔すんじゃねえ。殺すぞ」

ト杏子「おーい、すでに逝ってる」

ト土「」

ゆま「おりこおねえちゃんだって、まだそんなに出てないけどねんさんで、けーたるーおにいちちゃんだってやさしいし、まりおねえちゃんだって……う、うええええん……」

ゆまに言われた人々「」「泣いちやつた!？」」「」

ゆま「『皆違つて、皆いい』……じゃだめなの？　ゆま、いまのまのみんながいいよお!」

まどか「ご、ごめんね…… ゆまちゃああん……」 ↑つられて泣いた  
おりこ「そうよ…… 私は…… 私はあ……」 ↑上記  
キリカ「おりこおお…… 分かってくれたのかい!？」 ↑上に同じ  
啓太郎「そうだよ…… 僕達は変わる必要なんてないんだ……」 ↑同じく  
真理「そうだよ…… そうなんだよね……」 ↑もはや言うまでもない  
夏海「ゆまちゃん…… ぐすつ……」  
「杏子「ふう…… なんとかまとまったな」  
巧「ああ」

まどか「ゆまーん」  
おりこ「ゆまーん」  
キリカ「ゆまーん」  
啓太郎「ゆまーん」  
真理「ゆまーん」  
夏海「ゆまーん」

巧&amp;W杏子「「Σはあっ!？」」「」  
まどか「もう、ゆまちゃんをただの子供だなんて思えないよ!」  
おりこ「私達は、この子を崇めなければ……!」  
キリカ「君は…… 愛の恩人だ!」  
啓太郎「そうだ。ここに教会を建てよう」  
真理「この子の教えを皆に説かないと……」  
夏海「なんだかこういう流れて見たことありますけど、いいですよね!」

上記の人以外「「いやいやいやいやいやいやいや!」「」

ソウジ「これは予想外だったな」

さやか「まさかの『ゆま教』設立！？ ていつか教会建てようとか  
言い出してるよ！？」

W杏子「「止めるおおおおお！！ なんかトラウマえぐられてる気  
分だああああああああああああ！！」

ほむら「そして佐倉杏子が苦しんでる！？」

Tマミ「色々あったものね……佐倉さんは」

ワタル「蘇ったんですかマミ」

翔太郎「俺達も、頑張らないとな」

フィリップ「そうだね翔太郎」

ゆま「えへへー」

巧「まあ……一応これでいい……か？」

なのは「あれ？ また何か忘れてるような……」

はやて「解放されてもこの扱い……ガクッ」

バジンたん「ふっふっふ……」

ほむら「さりげなく登場しないで!？」

**FILE 8**    **【雑談！ グダグダと悩みとフリーダム】（後書き）**

今回はグダグダでした（笑）

トーマスさん申し訳ありませんでしたorz

さて、次回はクリスマス回です！

**FILE 9 【聖夜！ 奇跡とある可能性】（前書き）**

今回から海堂も参戦です。

FILE 9 【聖夜！ 奇跡とある可能性】

まどか「今年のクリスマスは楽しくなりそうですね！ ほむらちゃんの家でクリスマスパーティーなんて！」

ほむら「ああ……聖夜をまどかと過ごせる……」

海堂「マジレスすつとき、世界観の季節的におかしくねえか？」

巧「そういうことを言うな。レギュラー取り消すぞ」

海堂「いやけどさ」

巧「消されたいのか？」↑ファイズブラスター持ちながら

海堂「すみませんでした」

まどか「なんだか、今日の巧さん怖い……」

さやか「なんか張り切ってるよねえ」

真理「でも、皆よかったの？ わざわざ集まっちゃって」

杏子「あたしはあれだけどさー、ぶっちゃけクリスマスなんて家で楽しむもんだろ」

さやか「……だよ。うん。そうなんだよね」

巧「……」

海堂「……」

啓太郎「……」

ほむら「……はあ」

杏子「……ごめんなさい。本当にごめんなさいリア充自重します」

↑土下座しながら

SL「杏さやです。ね分かれます」

マミ「あなた達……私を忘れないで？」

さやか「ダメ……マミさんはお帰りください」

杏子「帰れ」

ほむら「あなたばっち慣れてるでしょ？ キュウベえとでも一緒に居てローストチキンむさぼってなさい」

マミ「……どうせ私なんか……」

ほむら「ふっふっふ……私とまどか以外はいらないのだから」

マミ「……今、私を笑った……笑いなさいよ、もつと笑いなさいよ  
おおおおおおおお！！！！」

SL「どうどう」

マミ「私は馬ですか!?!」

杏子「どっちかつつーと牛だよな乳的に」

マミ「だったら真っ赤なあなたをどつきましようか!?!」

まどか「皆! ただでさえ謹慎食らってずっとぼっちなんだよ!?!」

マミさんぐらい居ても別に問題ないでしょ!?!」

マミ「……orz」

まどか「あれ?」

真理「まどかちゃん、とどめさしてる……」

ファイズ「とりあえずさやかと杏子とほむら……覚悟はいいな?」

↑アクセルメモリー取り出す

三人「……ごめんなさい」

でも食らいました

三人「……」↑死屍滅裂

さやか「だが復活!」↑再生

ファイズ「よし、今度はこれを……」↑ブラスター持ち出す

さやか「もう止めて!?! クリスマスに物騒だし!」

キリカ「おりこ! セイヤーを楽しもう!」

おりこ「セイヤーはオーズよキリカ!」

啓太郎「ところで、今日も誰か来るんでしょ?」

シャル「だれくるの!?!」↑お菓子生成中

???「シャシャシャシャシャシャシャシャシャシャ」

???「マミちゃあああああん!!! しっかりしろ! くそっ……」

……こうなったら!」↑カードデッキを取り出す

巧「止める馬鹿！」

さやか「ん？ あのデッキ……」

啓太郎「今日のコラボゲストはボロットさんが連載中の『仮面ライダー×魔法少女 龍騎&まどか 孤独くいま>を変えるは龍の騎士』から城戸真司さんとマミちゃんだよ！」

Rマミ「こ、こんばんは……」↑龍騎の『R』

マミ「安心して！ あの子は安全だから！ ……下手なことしなければ」↑挑発（？）してマミられた人

真司「そっいえば俺の後輩だよなあ」

巧「ライダー的にはな」

まどか「マミさんもう一人の自分に会えてうれしそう！」

さやか「……そう？」

杏子「まあ、あたしらとしても普通のマミなことに感動してるけどな」

シャル「たぶんそのまえがひどすぎたのー」↑その前はフリーダムほむら「ただ龍騎がロリコン臭い」

真司「Σえっ!？」

キリカ「ちよつと待った！ 愛に制限はないよ!!」

おりこ「でもねキリカ、愛にも法律はあるのよ？」

キリカ「ええっ!？ 困るよ！ そんなものがあつたら私達の愛が終わってしまうよ!」

おりこ「私達は大丈夫よキリカ!」

キリカ「じゃあいいや法律バンザイ!」

さやか「なにこの茶番」

キリカ「茶番って言うなああああああ！ 私の愛を愚弄する気がい!？」

真司「でも……たつくんだって!」

巧「なれなれしく呼ぶな!？」

さやか「そっいえば、巧も『たつくん』なんだよね」

まどか「本編じゃまだ私達はたつくん!! タツヤだけど」

真司「たつくんも可能性あるじゃん！ ロリコン呼ばわりされる可能性が！」

巧「すでに何度もされたわああああああ！！」  
SL「ついでにまとめますところなりまゝす」

たくまど：まどかの中の人的に。あとたつくんの意味も。ただし今のところ明確な絡み無し

たくさや：読者方曰く『フラグが立っている』。現在師弟(?)関係たくマミ：そこそこの可能性あり。割と絡んでいる。マミがヤンデレそうだが……

たくほむ：似たもの同士？ ただしほむらは草加ルートまっしぐらw  
たくあん：不明

巧&amp;杏子「ちよつと待て『たくあん』って!?!」

マミ「おいしそうなカップリングね」

さやか「ヨイ」

真司「ほら、たつくんにだってカップリング成立の可能性が……!」

マミ「でも、乾さんには真理さんがいます……よね」

巧「なんだ今の間は」

真理「いや、私達そういう関係じゃないから!」

おりこ「そうよ。啓太郎さんがいるじゃない」

真理&amp;啓太郎「いやそれも違うから!」

キリカ「いつそ、ドロドロになった方がいいんじゃない?」

全員「「キバか!? 昼ドライダーか!?!」」

真司「あ、そうだ。今日はご馳走持ってきたんだ! ただ来るだけじゃなあと思つてさ!」

さやか「おおっ! 気が利くじゃん!」

真司「へっへーん、見ろ! 真司君自慢の」

『大量の餃子』が現れた!

全員「……」

真司「ん？」

Rマミ「……ごめんなさい。真司さん、これはさすがに……あなた  
は馬鹿なんですか!？」

真司「ええっ!？」

さやか「クリスマスに餃子を持って来るアホがいるかあああああ  
!！」

ほむら「目の前に居たわね」

真司「なんでこっちのさやかちゃんと全く同じ反応するの!？ い  
やでも! 一応それなりには気を配って……この餃子だって、たく  
さんあるけどおんなじ餃子は少ないんだぞ!？」

全員「「え?」「」」

巧「……ん? チーズの入った餃子……?」

杏子「野菜たつぷり餃子……」

マミ「あら、これオカラ使ってるわ」

ほむら「どれどれ……ブフウウウツ!!！」

まどか「どうしたのほむらちゃん!」

真司「あ、ほむらちゃん引いちゃったかあ。一個だけ入ってるワサ  
ビ餃子」

ほむら「こ……殺す気!？」

杏子「いや死なねえよ人間とか魔法少女とか関係なく」

まどか「止めて! 涙目になっててなんだかわいいわほむらちゃ  
ん!」

ほむら「……そう?ノノノ」

杏子「いやいや怒り静めるほどじゃないだろ!」

真司「あと、某チェーン店のフライドチキンとか……」

Rマミ「ケーキも作ってきたから、一緒に食べましょう!」

マミ「あら、私だって……ケーキ準備したのよ?」

さやか「まあ、どっちも食べちゃいましょうよ!」

ゆま「さんせー！」

シャル「おかしできたー」

杏子「おっしやそれじゃ食うか！」

~~~~~

杏子「めっちゃうまー！」

まどか「ケン。ツキーなんて久しぶりだよ！」

啓太郎「たっくん、熱くない？」

巧「……とりあえず」

さやか「食らえー！ ロイヤルストレートフラッシュー！」↑ブレイド使用

ほむら「なんの！ ハイパークロックアップ！」↑カブト使用

マミ「クラヒ面白いわねー」↑ちなみに銃系のライダーが得意+」

シザース」

キリカ「ケーキ食べたーい」

おりこ「もう、お食事が終わるまで駄目よ」

ゆま「デザートはおわってからー！」

キリカ「だって甘くないんだもの！ チャオズの甘口餃子もなくなっちゃったし！」

真司「チャオズって俺のこと！？ 自爆しちゃうの！？ 『さよならマミさん。どうか死なないで』って！？」

巧「分かりにくいわ！」

さやか「それにしても、そっちのマミさんは清純だよなー。正直、

うちのマミさんと取り替えたい」

マミ「Σちよっ！？」

Rマミ「でも、ヒロインって大変よ？」

真理「正直、ファイマギのヒロインって誰なのかなあ……」

SL「まとめると……」

真理：影薄い。多分ヒロイン枠じゃない
SL：ヒロインだなんて、あるわけない
まどか：今のところ最有力。ただし影薄い
さやか：むしろ主人公？ 今後が期待
マミ：むしろへたれ兼いじられ枠
杏子：ぶつちやけイケメン枠じゃね？（杏さやの夫適任率的に
ほむら：むしろ草加

全員「「「まともじゃねえ」「」」

真理&まどか「「私達はまともだよ!?!」」

さやか「ていうかあたしだってまともだあああ!」

マミ「もはや、私に先輩としての威厳はないのね……orz」

さやか「どこまでダディなんだこの人は!」

真司「そういえば、マミちゃんもそんな時期があつたよなあ」

Rマミ「それは忘れてください……」

まどか「それにしても、そっちの私やさやかちゃんはよかったんですか?」

Rマミ「こつちでもクリスマス特別編やるから大丈夫よ」

さやか（……かぶってるけどいいのかよ……）

真司「あ、忘れてた」

杏子「あん?」

Rマミ「ファイマギの皆にクリスマスプレゼントです!」

ファイマギ組「「「おおっ!」」」

真司「じゃあたつくくんから!」『。ン。ン。ン』のぬいぐるみ

さやか「へ!? なんでそれ!?!」

巧「……!」うずっ

さやか「なんで欲しそう!? それ中の人の好みなんだよね!?
ねえ!?!」

巧「モフモフ」↑ぬいぐるみに顔を埋める

さやか「はまってるしいいいいいい!」

海堂「なんか、意外すぎて気持ちわりい……」

ほむら「というか、いい大人がクリスマスプレゼントもらってることに気づきなさいよ。原作から3年経ってる設定なのよ？ 最低でも21歳、当に成人してるじゃない」

巧「モフモフモフ（マジレスすんな馬鹿）」

さやか「ゴメン。ぜんぜんかわいくねえ」

真司「まどかちゃんには演歌のアルバムCD、さやかちゃんにはクラシックのオルゴールアレンジのCDつと！」

全員「「演歌!？」」「」

まどか「ありがとうございます！」

杏子「意外だな……」

ほむら「そういえば、演歌のCD置いてあったわね……」

巧「……お前、昭和もいける口か？」

啓太郎「たつくんがくいついた!？」

Rマミ「そちの私には……これ、高級な紅茶ね」

マミ「あ、ありがとう。うれしいわ」

杏子「ちなみにあたしは靴下っぱいお菓子の詰め合わせだせひゃっほーい！」

さやか「それってゆまちゃん向きじゃないの!？」

ゆま「ゆまもキョーコと同じだよー！」

さやか「……うん。それならしょうがない」

ほむら「……私は？ 私のまどかのパンツは？」

真司「大丈夫。そちのまどかちゃんにはしっかり言っておいたから」↑黒い笑顔

ほむら「え……」↑ゆっくりとまどかの方を振り向く

黒まどか「うん……これが、私のクリスマスプレゼントだよほむらちやああああん!!」↑鉄製ハンマー

ほむら「昔懐かしの10tハンマーアアアアアアア！ ほむブフッ！」

巧「シティー。ンターか」

最終的に金平糖くん（トゲ鉄球）も加わり、ボロボロになった
ほむらを外に放置して一同はほむらの家に泊まることになりました
♪ 当然男女別々である

巧「さて、寝るか」

真理「ぬいぐるみ抱きながら!? 子供!？」

さやか「……あれ? 巧の持つてる奴、さっきと微妙に違うような
……」

Rマミ「あ、さやかさんさやかさん」

さやか「ん? なんすかそっちのマミさん」

Rマミ「これ、私からのプレゼントね」

さやか「これ、巧とおんなじぬいぐるみ……?」

Rマミ「そうよ、さっきすり替えたのよ……あの人が顔を埋めなが
ら抱きしめてたのを」

さやか「Σはあっ!?! / / /」

Rマミ「あなた、頑張つてね!」

さやか「いやあたし恭介一筋だし迷惑だしあたしにとって巧は師匠
みたいなもんでそんなこと……!」

Rマミ「あ、後ろに巧さん」

さやか「えっ!?!」

Rマミ「う・そ・よ」

さやか「……貴様あああああ! ムツコロス!」

Rマミ「うふふそれは好きにきなさいうふふ」

さやか「待てやおおおおおいッ!」

さやか「……………／＼／」モフモフ

杏子「……………してるじゃねえか」↑さっきの会話聞いてた

さやか「ナ、ナズエミテルンデイス！？ い、いや、そんなじゃないから……………ただ単純にモフモフしたかっただけだからあああああああああ！／＼／」↑逃走

杏子「……………その反応は肯定してるようなもんだぞ……………」

……………

深夜、居間。

巧「……………」

真司「お、たつくん起きてたの？」

巧「……………まあな」

真司「……………じゃ、ここからは大人の楽しみといきますか」↑シャ
ンパン取り出す

巧「……………酒、あんま得意じゃねえけどな……………」

真司「まあ、俺もそうでもないけどさ」

巧「……………今日は、ありがとな」

真司「え？」

巧「俺、小さい頃に独りになってからクリスマスに祝い事するなんてほとんど無くてさ、三年前のクリスマス、真理や啓太郎がやたら張り切ってたのを覚えてる」

真司「……」

巧「んでその夜、三人……あ、草加も居たか。四人でやったんだよな。草加はいやそうだったけどな……まあ、俺もそんな気分じゃなかったけどな」

真司「なんか、草加って人がすっごい報われない」

巧「クリスマスなんていっつも寒くてさ、なんであるのか分からなかった。けど、あいつらと一緒にだった時、……俺が熱いもの苦手なの知ってるだろ？」

真司「ああ……猫舌だっけ？」

巧「けど、あの時離したくないと思った。あのあったかい、ぬくもりを……」

真司「……たつくんってさ、マミちゃんとか、皆のことどう思ってる？」

巧「あ？」

真司「俺はさ、マミちゃんのこと、守りたいと思ってる」

巧「……お前、やっぱりあのマミのこと恋愛的に好きなんじゃないか？」

真司「……ま、まあ、嫌いじゃないけどさ」

巧「……ふうん」

真司「マミちゃんもそうだけど、まどかちゃんも、さやかちゃんも、大切な人だから」

巧「……俺も、似たようなもんだ。あいつら、なんかほっとけねえし、それに……」

真司「それに？」

巧「俺は、あいつらの未来あゆを守ってやりたい。それだけだ」

真司「……似てるな、俺達」

巧「お前みたいいな馬鹿と一緒にかいやだけどな」

真司「そりやないって!」

巧「……頑張ろうぜ、お互いにな」

真司「……ああ、絶対、守りぬいてみせる。それが、『俺の願い』
だから」

巧「……やっぱ、似てんな、俺達」

真司「ははは、そうだな」

巧「……さて、一杯やったら寝るか」

真司「そうだな……って、ん? なんじゃこりゃ」

巧「……メッセージカードか?」

『頑張れ、誰かの為に戦うヒーロー』

真司「……サンタクロースからのプレゼントだったりして」

巧「……まさか、な」

その夜、戦士は改めて戦う決意を誓った。それを後押しするように添えられたメッセージカード。それは、聖夜が起こした奇跡なのかもしれない……

Merry Christmas, Defence People
Of a Life And a Dream.

FILE 9 【聖夜！ 奇跡とある可能性】（後書き）

『Merry Christmas, Defence people Of a Life And a Dream.』、『メリークリスマス、希望^{いのち}と夢の守り人』。

今回はクリスマス回と言うことでちょっとしんみりとする落ちでした。そして今回だけのマミさん復活。そしてコラボでようやくWマミさんとなりましたw そして、ほんとファイマギのヒロインは誰だw 年末年始回はある……のか？

FILE 10 【年末！ 煩惱は今年の中に滅しとけ！】（前書き）

年末年始3本立て企画第1弾年末編！

FILE 10 【年末！ 煩惱は今年の内に滅しとけ！】

杏子「今日は忘年会だ！」

さやか「忘年会って、大晦日にやるもんだっけか？」

まどか「今年ももうすぐ終わりですねー」

巧「そうだなあ……せめて、本編もうちょっと進まなかったのか？」

さやか「まあ、きょうはそういうのは言わないでワイワイやろうよ！」

マミ「それで、今日は誰が来るのかしら？」

杏子「今日はコラボないってさ」

ほむら「さりげなく居座ってるわよこの豆腐」

マミ「誰が豆腐よ。ちゃんと許可をもらってきたわ。それに、流石に年末年始で独りは辛すぎる……orz」

ほむら「……いや帰れよ」↑冷めた目

<……アッー！

ほむら「↑死屍滅裂

黒まどか「海堂さーん、こいつ外に捨てといて」

海堂「あいあいさー」

杏子「いやスルーすんな！？ 蛇のにーちゃんそれ一応人だからああああ！」

さやか「一応って言うあたりあんたも性格キツイよね」

巧「何を今更」

杏子「少なくともお前にはいわれたくねえよツンデレ！」

さやか「いやーにしてもこたつていーわー」 入りながらみかん
食べたりとか」

巧「おばさんかお前は」

さやか「誰がおばさんだコラ」

海堂「にしても三原の奴かわいそうだなあ。結局、今年はファイマ
ギ出られなかったし」

マミ「過去の話じゃ駄目なんですか？」

海堂「じゃなかったら以前の短編で俺たち出れてるっちゅーの」

まどか「そういえば、琢磨さんって人は来ないんですか？」

啓太郎「ああ、確か今日は仕事仲間の人たちと飲んでるらしいよ」

さやか「いいよなー大人は。マミさんだったら年ごまかせばいける
んじゃないですかー？」 ↑マミの胸凝視

マミ「美樹さんあなたどこ見て言ってるのよ!？」

まどか「……決めた。来年の目標！ せめて、さやかちゃんぐらい
になりたい！」

海堂「胸をか？」

<アッー！

海堂「……ぐふっ」 ↑女子勢にフルボッコ

まどか「分かってても口に出さないでくださいよ」

巧「お前……そんなキャラだったか？」

海堂「ギャグキャラになったせいだぜ……ぐふっ」

さやか「今年は色々あったよなあ……あたしの不憫さなんてかすん
で見えるくらいに……」

全員「……」「……」

さやか「……あー、ゴメン。なんか湿っぽくしちゃって」

巧「いや、こういうのは、きちんと胸の中に刻んで、前に進んでいくべきだ」

杏子「そーだよなあ。落ち込んでたってどうしようもないもんない……」

マミ「そうよ。常に元気で、明るくいきましょうよ！ 来年も！」
まどか「はい！ ……でも、ファイマギメンバーである私達が、明るくなんてできるんですかねえ……」

おりこ「来年……というか今後はもっと暗くなりそうなものね」
キリカ「未来予知で今後の展開を見れないのかいおりこ？」

おりこ「こういうのは、自分達の目で見えていくべきよ。キリカ」
キリカ「ふあーいず」

マミ「でも、忘れるべきこともあるわよ？」
さやか「あんたの場合は一生刻み続ける」

まどか「『皆死ぬしかないじゃないの惨劇』を繰り返すつもりですか？」

巧「悪いことは言わない。どこそその銃使いみたいになりたくなかったらメンタル鍛えろ。鬼になる勢いで」

マミ「何！？ 私そこまでメンタルもろい！？」
まどか「そんなマミさんにはもずくぶ」さやか「言わせねえよ！
？ 本当にダディになっちゃうって！」

啓太郎「まあ、確かに忘れちゃいけないものと忘れなきゃいけないものってあるよね」

巧「どした啓太郎」

啓太郎「今日はゲストもいないことだし、『さあ、自分の恥を数えろ！ 忘年会煩惱晒し大会』開さーい！」

杏子「マジで！！？」

さやか「杏子！？ なんか違うよ！？」

杏子「え……あ、わりの。一瞬ツッコミ役を思い出してた」
巧「大体分かった。ビュティか」

マミ「ボボボーボボーボ知ってる人はいるかしら？」

さやか「ていうか、とある場所にボーボとあたし達のクロス物ありますけどねえ。作者初めて見たときは発狂レベルで歓喜してたらしいっすよ？」

啓太郎「とりあえず、まずはマミちゃん！ 今年の反省を！」

マミ「……とりあえず、鹿目さん達を自己満足のために契約させようとして自滅しかけて、それを乾さんに助けてもらって……病んで魔女に操られて……美樹さんと対決になって……今後のことを考えると、私ってほんとピエロorz」

キリカ「それを糧に精進するんだ恩人」

さやか「次はまどかかな？」

まどか「私は……マミさんを傷つけちゃったりマミさんを傷つけちゃったりマミさんを傷つけちゃったりマミさんを傷つけちゃったり」

啓太郎「全部同じだよ！？ ていうか病んでない！？」

まどか「後腹黒いしかわいげないし迷惑かけてばかりだし……もう、契約しちやおっかな？」

巧「出来ないことなんてない。諦めたら本当に何も出来なくなる。だから諦めるな。自分にできることをやって、それを信じる。希望につながるようにな」

まどか「……はい！」

さやか「あたしは……マミさんがヤンデレる原因作っちゃったし……これからもつと迷惑かけるかもなあ」

巧「まあ、なんかあったらフォローはしてやる」

さやか「うん……ありがとう」

マミ「……私も救われたいわ……」

杏子「あたしは来年から本気だなあ」

ゆま「そういえば、まどマギがはじまってほしい1なんだつよね」

まどか「ああ、そういえばそうだね」

おりこ「一年前はこんなに人気が出るなんて思っても見なかったでしょうね」

さやか「深夜番組が視聴率20%越えとか誰が想像できる」

まどか「私なんて理だよ？　こんなの誰も想像できないよ」

さやか「あたしなんて救われない……死ぬか出番ないかの二択……どちらにしろキャラとか出番的に死んでるなんて……あたしってほんと不憫」

マミ「乾さあん、あなたに私達が救えるんですかあ？」

巧「な、なんとかなる」

まどか「そんなこといっても、正直海堂さんの方が仕事してますよ？　フラグクラッシュ的に」

巧「ぐっ！？」

さやか「ちよいちよい！？　なんか巧いじめになってない！？」

ほむら「ぐ……うう」

黒まどか「何で戻ってきたの？」

ほむら「ごめんなさい今後の行動はちゃんと慎みます」土下座

まどか「ほむらちゃんいい娘」

さやか「転校生を手なずける……恐ろしい子！」

真理「皆ー。年越し蕎麦出来たよー」

さやか「おーうつまそう！」

巧「そういえば、あと2時間もしないで2011年も終わるか」

まどか「なんだか、長いようで短かったですね」

マミ「まあ、始まったのが7月末だもの。半年も経ってないわ」

さやか「ま、とりあえず早く食べちゃおうよ」

杏子「それにしても律儀だなあーカップ麺でもいいのに」

巧「俺に死ねと！？」↑安定のフーフー

杏子「いやいやカップ麺で死ぬとかわけわかんねえ！」

真理「巧猫舌だからカップ麺は駄目なの」

さやか「あれ？　たっくんも案外かわいいとこあんじゃん」

巧「なんで『たっくん』！？　どんだんなれなれしくなっていないか
お前！？」

杏子「いんじゃないの？　のろけてるみたいだし」

巧「は？」

さやか「のろけって何よのろけって／＼」

真理「さ、早く食べよ」

海堂「ま、あれだな。来年から本気だすってことで」

キリカ「出来れば来年うんぬん関係なく頑張っで欲しいけどね」

まどか「……それじゃ」

全員「……いただきます！」

2012年に続く

FILE 10 【年末！ 煩惱は今年の中に滅しとけ！】（後書き）

次は0時の年始編！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1068x/>

仮面ライダー×魔法少女 555 MAGIKA 超スピンオフ！

2011年12月31日22時46分発行